

# 卓越研究員事業について

## (参考資料集)



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

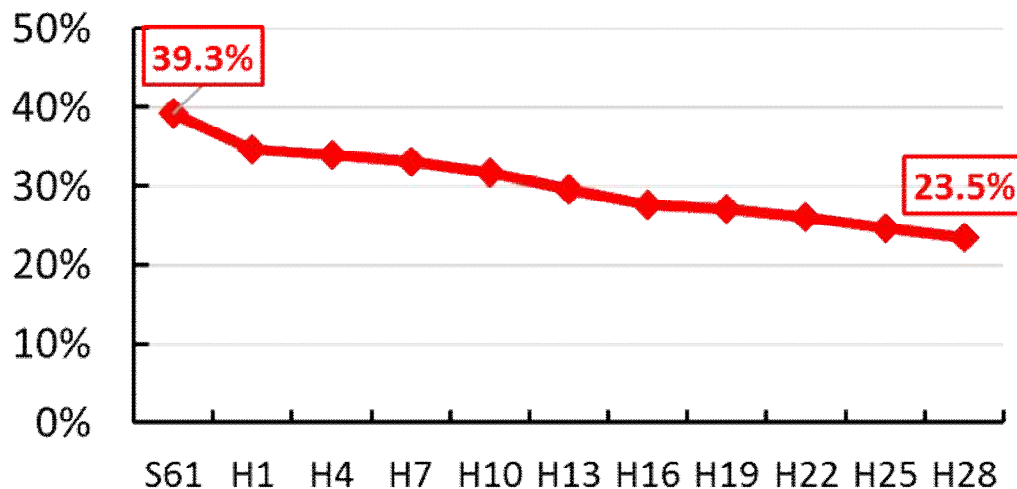
# 1. 事業実施の背景と政府方針

# 課題①：若手研究者割合の低下（大学本務教員に占める若手教員の割合）

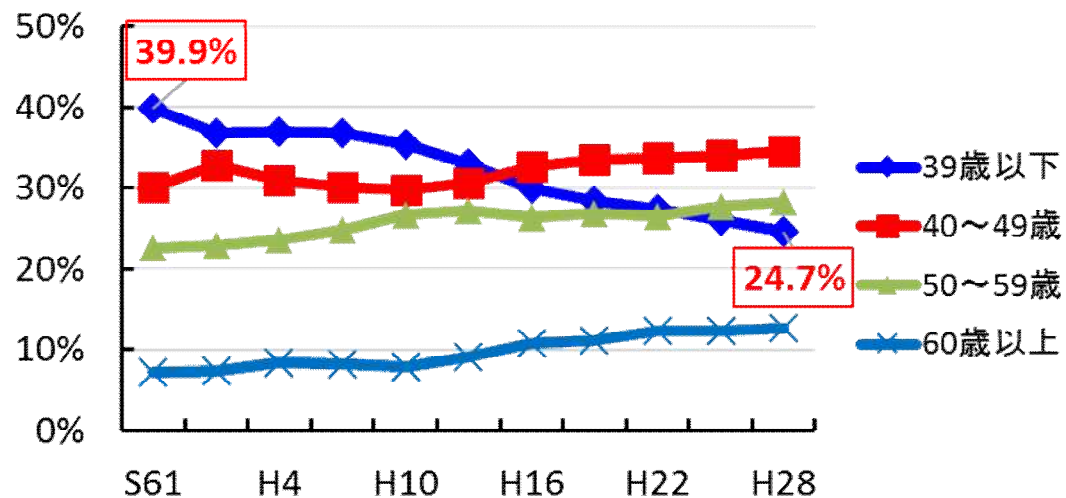
○ 大学本務教員に占める若手教員の割合は低下傾向。

※「第5期科学技術基本計画」（平成28年1月22日閣議決定）において「第5期基本計画期間中に、40歳未満の大学本務教員の数を1割増加させるとともに、将来的に我が国全体の大学本務教員に占める40歳未満の教員の割合が3割以上となることを目指す」とされている。

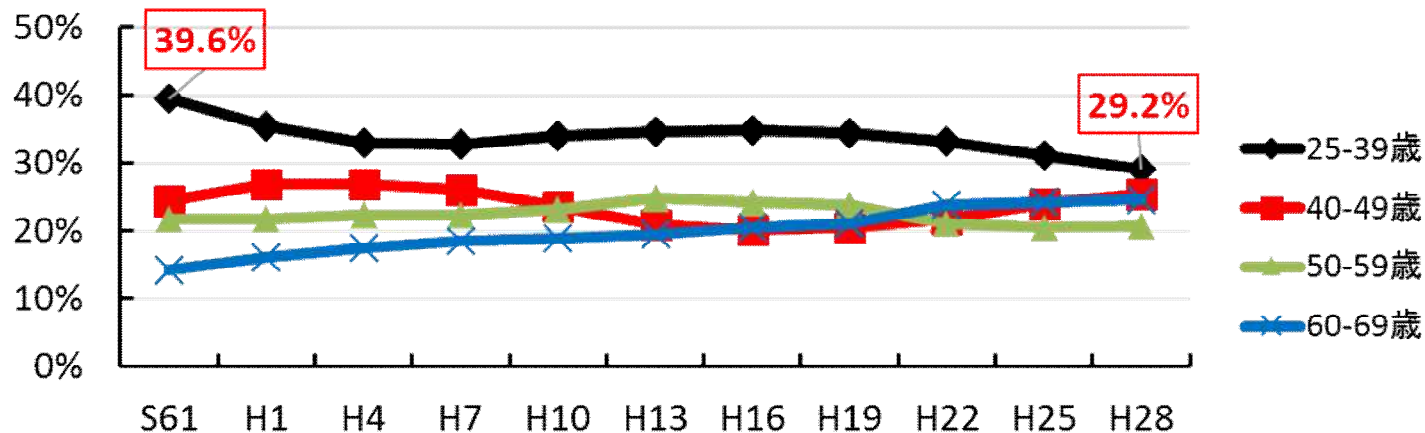
40歳未満本務教員比率（全大学）



国立大学教員の年齢階層構造



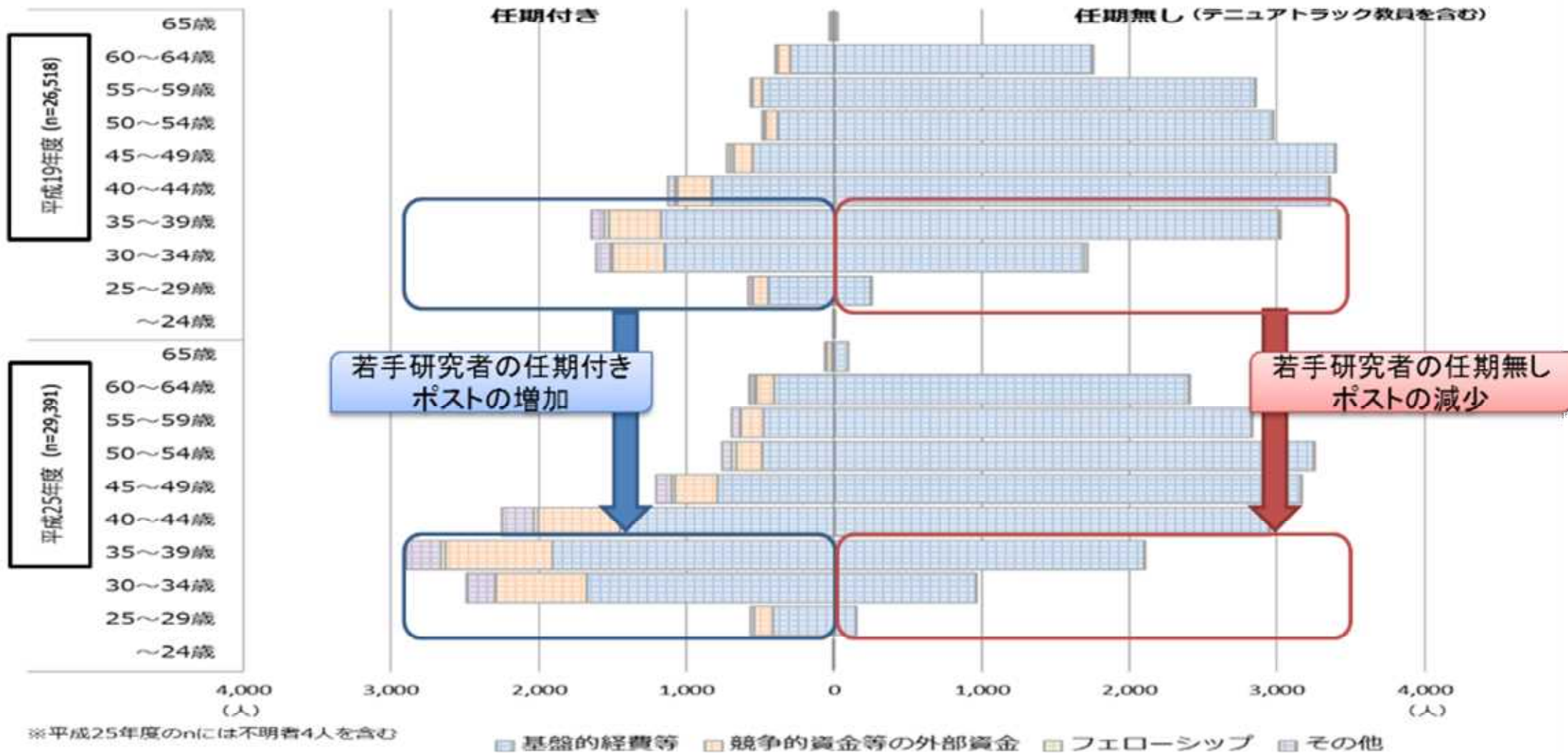
日本の人口の年齢階層別比率（25～69歳）



資料：文部科学省「学校教員統計調査」及び総務省「人口推計」に基づきNISTEP及び文部科学省において集計

# 課題①：若手研究者割合の低下（研究大学における教員の雇用状況）

○研究大学(RU11)においては、任期なし教員ポストのシニア化、若手教員の任期なしポストの減少・任期付ポストの増加が顕著。

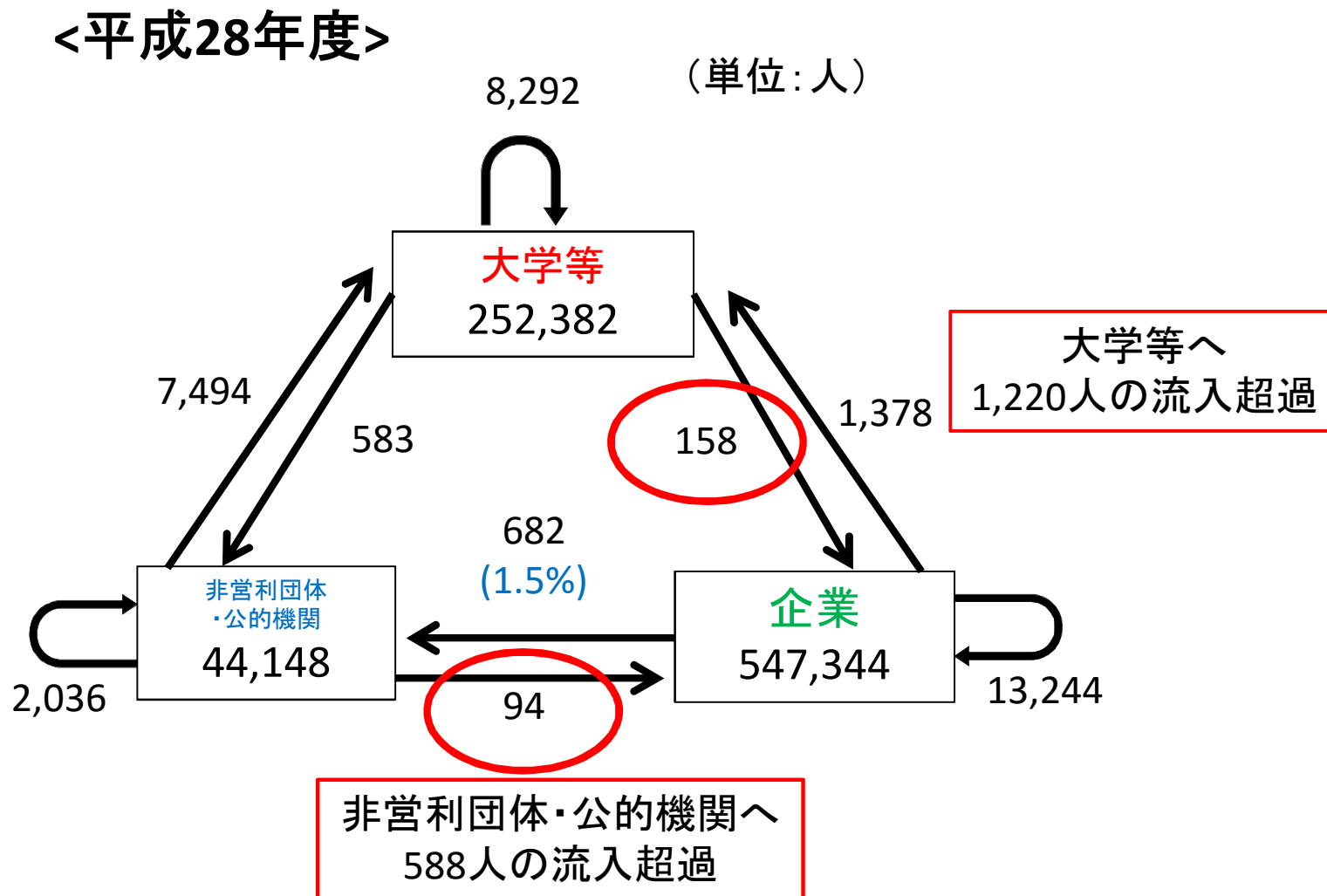


※学術研究懇談会（RU11）を構成する11大学における大学教員の雇用状況に関する状況を調査したもの。

出典：「大学教員の雇用状況に関する調査」（平成27年9月 文部科学省、科学技術・学術政策研究所）

## 課題②：産学官の研究機関における研究者の状況（大学本務教員の移動状況）

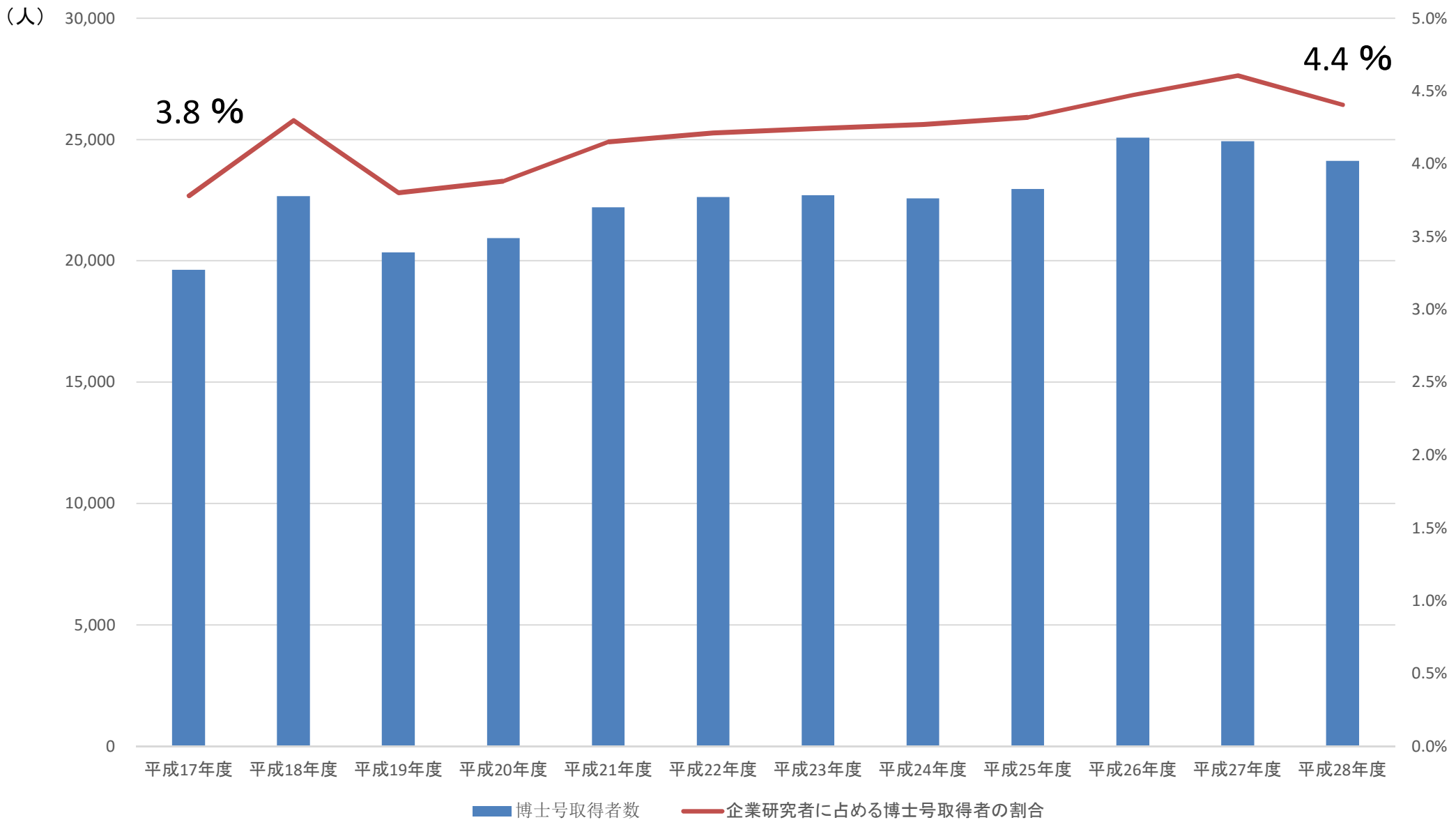
- 研究者のセクター間・セクター内の異動率はともに低く、特に、大学等や公的機関等から企業への異動者が少ない。



※異動割合とは、各セクターへの転入者数を転入先のセクターの研究者総数で割ったものを指す。  
※大学等の研究者からは博士課程学生を除いた。

# 課題②：産学官の研究機関における研究者の状況（我が国企業研究者に占める博士号取得者の割合）

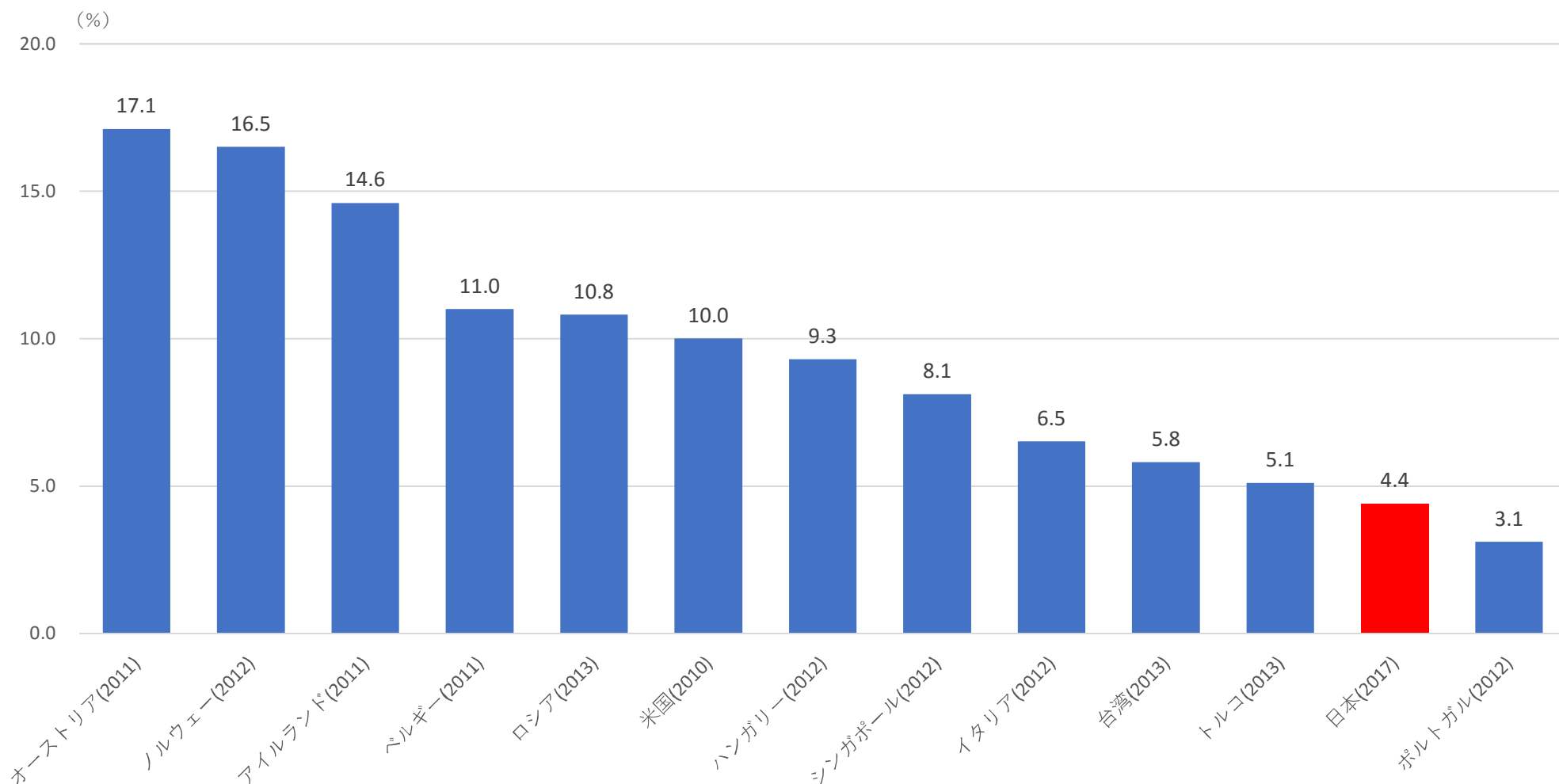
○我が国の企業研究者に占める博士号取得者の割合は、微増傾向にある。



出典：総務省統計局「科学技術研究調査」を基に文部科学省作成

## 課題②：産学官の研究機関における研究者の状況（企業研究者に占める博士号取得者の割合（各国比較））

○我が国は、企業研究者に占める博士号取得者の割合が各国と比較して低い。



出典：（日本）総務省統計局「平成29年科学技術研究調査」  
（米国）”NSF, SESTAT”  
（その他の国）”OECD Science, Technology, and R&D Statistics”  
以上のデータを基に文部科学省作成

## Ⅱ．Society 5.0 に向けた横割課題

### Ⅱ—A．価値の源泉の創出

#### Ⅱ—（A）—3．イノベーション・ベンチャーを生み出す好循環システム

#### 我が国が強い分野を支える拠点・人材への集中投資

- ・優秀な人材が研究者を目指すよう、卓越研究員事業の推進等により若手研究者の安定した研究環境を確保する（後略）



# 政府方針②：第5期科学技術基本計画（平成28年1月閣議決定）

今後起こり得る様々な変化に対して的確に対応するため、**若手人材の育成・活躍促進**と大学の改革・機能強化を中心に、基盤的な力の抜本的強化に向けた取組を進める。

## ○ 人材力の強化

- 若手研究者のキャリアパスの明確化とキャリアの段階に応じ能力・意欲を発揮できる環境を整備（**若手向け任期なしポストの拡充**促進、**大学の若手本務教員の1割増**など）

国内外の人材、知、資金を活用し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進めるため、**人材、知、資金があらゆる壁を乗り越え循環**し、イノベーションが生み出されるシステムを構築。

## ○ オープンイノベーションを推進する仕組みの強化

- 人材の移動の促進、人材・知・資金が結集する「場」の形成、
- こうした取組を通じたセクター間の研究者移動数2割増、大学・国立研究開発法人の企業からの共同研究受入れ額の5割増

# 政府方針③：平成29年度秋の年次公開検証のとりまとめ

## ○大学（研究等の担い手の育成）

- ・そもそも、こうした個々の事業の乱立は、経営力の強化等をもって、研究及び教育の水準を向上させるという、国立大学法人改革で本来目指した方向性を阻害する懸念がある。具体的には、研究や教育の業績評価に応じた人材活用等は十分に進んでいない。  
これらの事業は、本来、国立大学法人等の経営努力によって解決すべき当面かつ直面する深刻な問題である若手研究者の雇用の維持等のための方策としての事業である。
- ・こうした現状に対して、文部科学省が各種の事業を立ち上げ、対応しているが、既存の在籍者の給与削減によって、各大学が人件費をいくら捻出したのか、それを若手の登用に手当てすることができたのか、といった肝心の数値が把握できておらず、これらの事業に対して国民の税金を投じることの合理性について疑念がある。
- ・大卒の今後の方向性としては、①様々な事業の乱立、特に教育政策と科学技術政策の間で、対象者や補助内容の重複を徹底的に排除するとともに、その目的や内容を整理する必要がある。②国立大学法人改革の目指した方向性を促すべきである。つまり、高齢教員と若手教員の入替え、高齢教員の給与削減による若手の登用、更には、各大学における教員の評価システムの制度の確立及び運用など、「経営努力」をしっかりと行った大学に対してのみ支援するようインセンティブ設計も見直すべきである。
- ・以下、個別の事業について、必要なものをコメントする。（中略）
- ・「科学技術に関する人材の養成・活躍促進のうち卓越研究員事業、研究人材キャリアマネジメント促進事業、科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業、テニュアトラック普及・定着事業」については、この春の公開プロセスを踏まえるとともに、重複を排し、既存施策との関係を整理するため、廃止も含めて抜本的に見直すべきである。（後略）

## 2. 事業実施状況

### ①平成29年度事業（平成29年11月末時点）

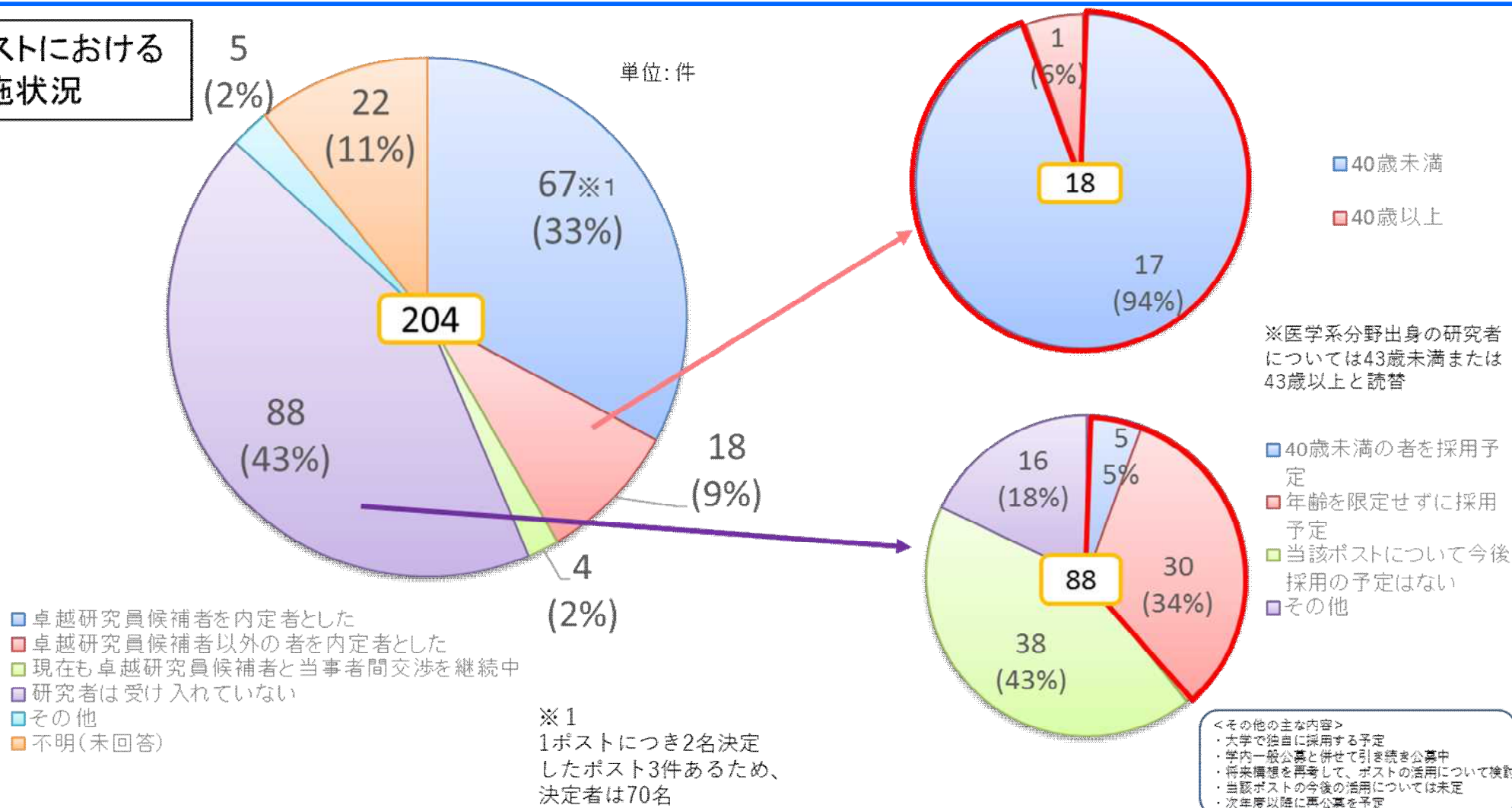
# 平成29年度における卓越研究員事業の実施状況（平成29年11月末時点）

平成29年度卓越研究員事業の実施状況について、

○本事業により一覧化公開されたポストにおいて、安定かつ自立した研究環境を得た者70名を「卓越研究員」として決定したところ。

○一方、平成29年度にポストの一覧化公開をした各研究機関においては、現時点で調整中のポストに加えて、「卓越研究員」ではないものの、若手研究者を採用又は今後採用を予定しているポストあり（卓越研究員候補者以外の若手研究者を受け入れたポスト17件、今後若手研究者を受け入れる可能性があるポスト35件など）。

全204ポストにおける  
実施状況



# 平成29年度卓越研究員事業への機関からのポスト提示状況（平成29年11月末時点）

●国立大学（40機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
1北海道大学	1	
2北見工業大学	1	
3弘前大学	1	
4岩手大学	1	
5東北大学	5	2
6山形大学	3	2
7茨城大学	1	1
8筑波大学	2	2
9宇都宮大学	1	
10群馬大学	7	3
11埼玉大学	2	2
12千葉大学	2	
13東京大学	12	7
14東京農工大学	1	
15東京芸術大学	1	
16東京工業大学	3	1
17電気通信大学	3	1
18横浜国立大学	1	1
19新潟大学	3	1
20長岡技術科学大学	2	1

●企業（21機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
51三菱電機	1	
52日立製作所	2	
53富士通研究所	1	
54第一三共	4	
55ユーグレナ	1	1
56NEC	2	
57JFEスチール	10	
58日本電子	1	
59住友電気工業	15	
60ソニーコンピュータサイエンス研究所	1	
61パナソニック	7	

	平成29年 申請	平成29年 決定
21金沢大学	12	6
22山梨大学	2	
23信州大学	1	1
24岐阜大学	1	1
25浜松医科大学	1	
26名古屋大学	1	
27京都大学	9	5
28京都工芸繊維大学	2	2
29大阪大学	3	1
30神戸大学	2	2
31島根大学	2	1
32広島大学	3	1
33山口大学	1	
34九州大学	1	
35九州工業大学	4	
36長崎大学	2	1
37熊本大学	3	3
38宮崎大学	3	
39鹿児島大学	3	
40奈良先端科学技術大学院大学	1	1
計	110	49

	平成29年 申請	平成29年 決定
62ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ	2	
63リバーフィールド	1	
64HIROTSUバイオサイエンス	1	1
65日本製粉	1	1
66キリン	1	
67Karydo TherapeutiX	1	
68ガン計画研究所	1	
69シンクサイト	1	
70味の素株式会社	1	
71出光興産株式会社	1	
計	56	3

●公立大学（2機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
41大阪市立大学	3	1
42大阪府立大学	3	2
計	6	3

●私立大学（4機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
43早稲田大学	1	
44東海大学	1	
45順天堂大学	1	1
46聖路加国際大学	1	1
計	4	2

●大学共同利用機関（0機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
計	0	0

●国立研究開発法人（4機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
47産業技術総合研究所	12	4
48物質・材料研究機構	3	2
49理化学研究所	9	3
50日本原子力研究開発機構	3	4
計	27	13

●社団・財団法人（1機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
92公益財団法人がん研究会	1	
計	1	0

●全体（72機関）	平成29年 申請	平成29年 決定
計	204	70

※東京大学においては、1ポストに対して2名採用したポストが2ポスト  
 ※日本原子力研究機構においては、1ポストに対して2名採用したポストが1ポスト



# 平成29年度における卓越研究員事業の状況（平成29年11月末）＜分野別＞

○昨年度と比較して生物系と数物系科学において、決定割合が大幅に改善。（生物系 1 → 5 件、数物系科学 9 → 19 件）

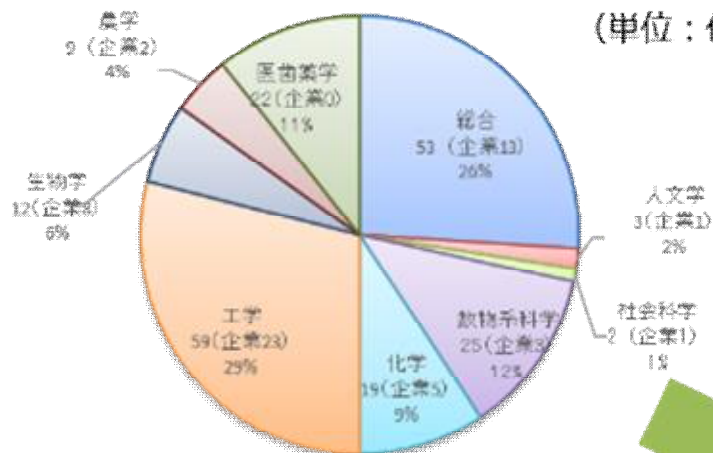
○人文学と社会科学については、決定者が0。

＜分析＞・人文学と社会科学については、一覧化公開ポスト数の減少等が影響したものと分析。

※一覧化公開ポスト提示機関及び卓越研究員候補者に対して、アンケート調査を実施し、当該結果をより詳細分析中

一覧化公開ポスト（204件）

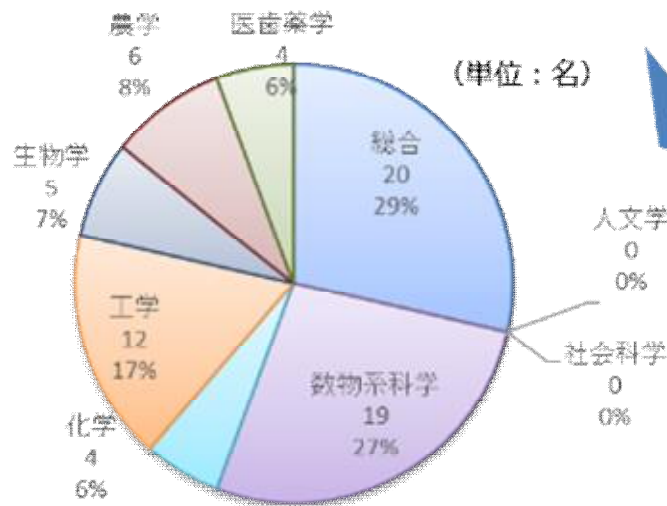
（単位：件）



※一覧化公開ポストにおける分野は、ポストが提示した分野（総合には分野が指定しないポストも含まれる）

平成29年度卓越研究員（70名）

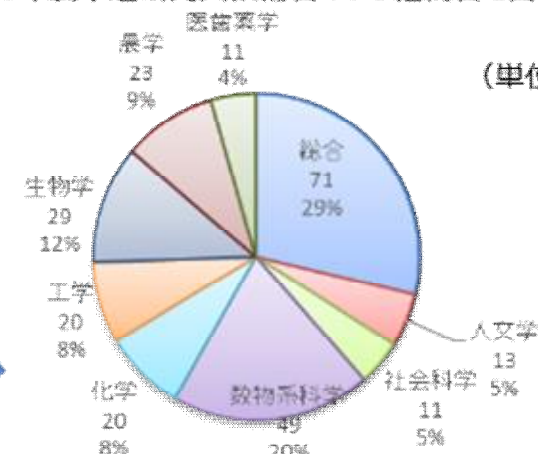
（単位：名）



平成29年度卓越研究員候補者（247名）

（平成28年度卓越研究員候補者のうち継続者を含む）

（単位：名）



※卓越研究員候補者及び卓越研究員における分野は、事業において本人が所属した事業分野を示す

平成29年度卓越研究員事業

分野	総合	人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学	生物学	農学	医歯薬学	合計
一覧化公開ポスト	53	3	2	25	19	59	12	9	22	204
H29卓越研究員候補者(※1)	71	13	11	49	20	20	29	23	11	247
H29卓越研究員決定者(※2)	20	0	0	19	4	12	5	6	4	70

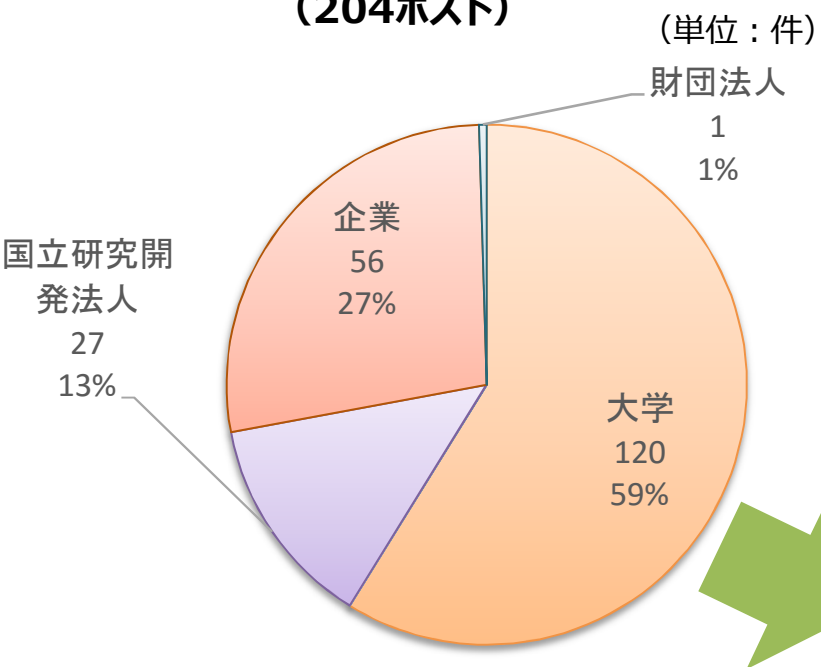
出典：文部科学省作成

(※1)平成28年度卓越研究員事業のうち平成29年度卓越研究員事業に継続する者を含む (※2)一つのポストにつき、2名を決定したポスト3件あり。

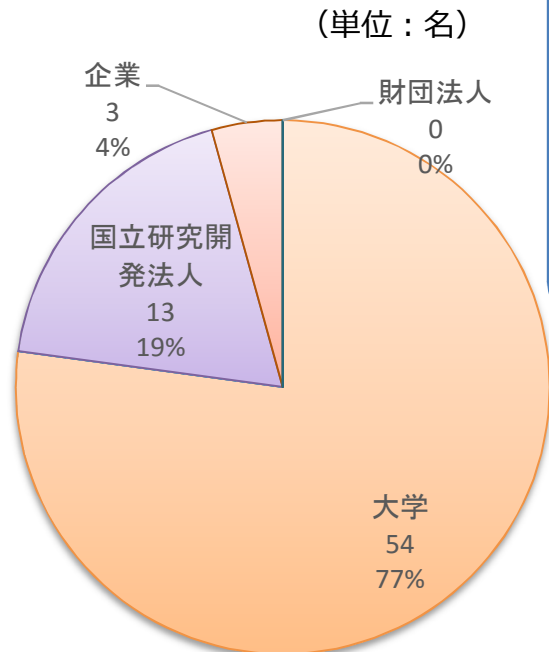
# 平成29年度における卓越研究員事業の状況（平成29年11月末） <機関種別>

- 機関種別にみると、大学への決定割合が77%と大きい。企業への決定は、3社となっている。
- 企業については、ベンチャー企業が2/3であり、今後の企業への働きかけ先を検討。
- 一部の企業から昨年と比べ候補者の接触数が増えたが、決定までに至らなかったという報告もあり、一覧化公開ポスト提示機関及び卓越研究員候補者に対して、アンケート調査を実施し、当該結果を分析中。

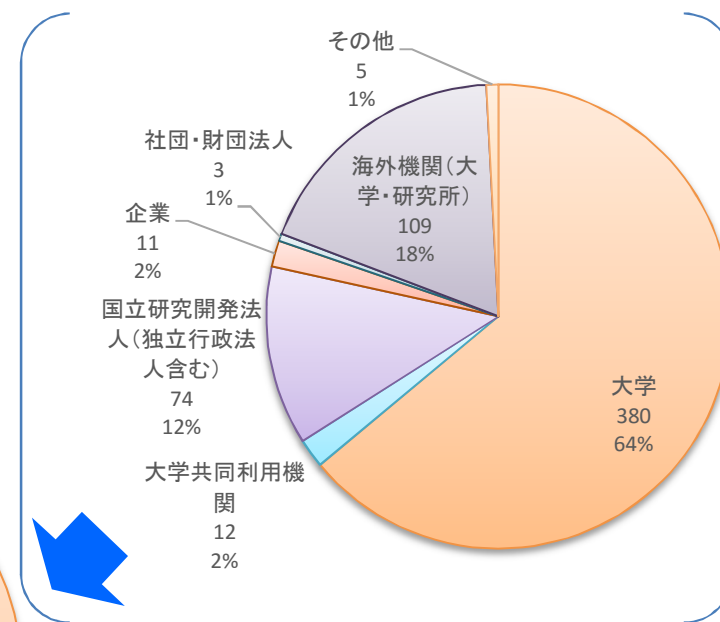
## 平成29年度一覧化公開ポスト提示機関 (204ポスト)



## 卓越研究員 (70名) を受け入れた機関種 (67ポスト※) 別内訳



## (参考) 申請者の申請時の所属機関 (28継続者含む) (594名)



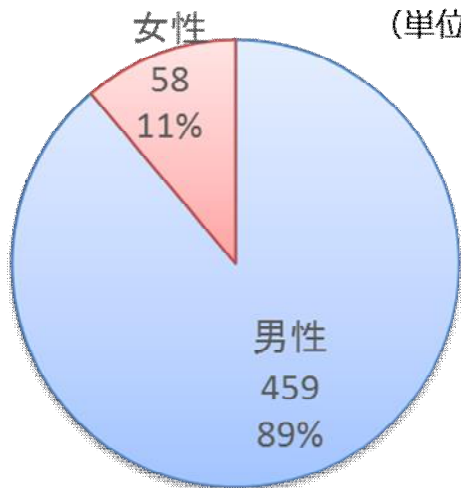
※1つのポストにつき、2名受け入れたポスト3件あり。

# 平成29年度における卓越研究員事業の状況（平成29年11月末）＜性別＞

○性別で比較すると、女性の決定割合が13%と、昨年度と比して5%の増（7人→9人）となっており、女性の採用数は若干改善。

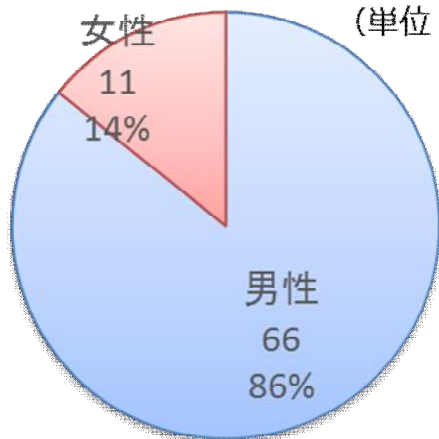
平成29年度申請者（517名）

（単位：名）



平成28年度継続者（77名）

（単位：名）

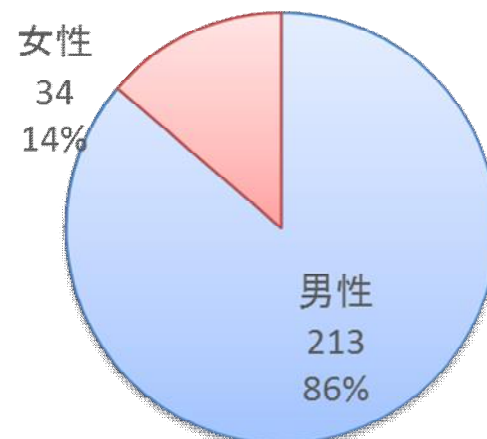


新規  
170名  
決定

+

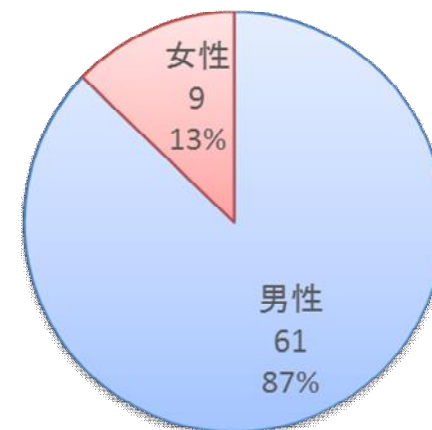
平成29年度卓越研究員候補者（247名）

（単位：名）



平成29年度卓越研究員決定者（70名）

（単位：名）

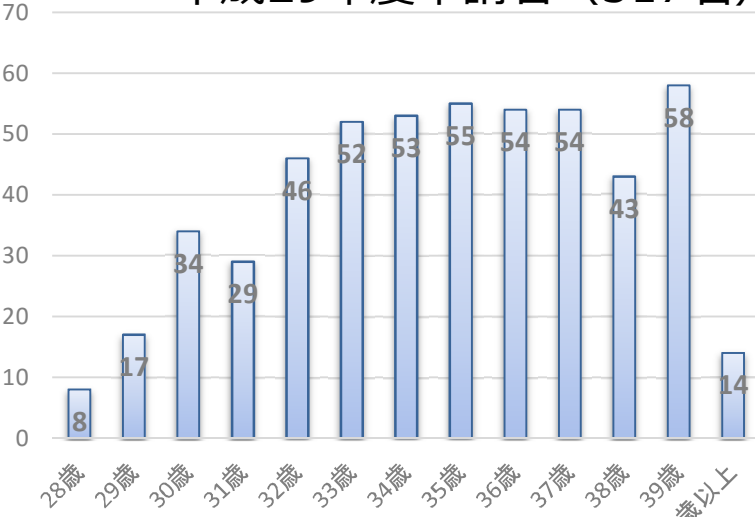




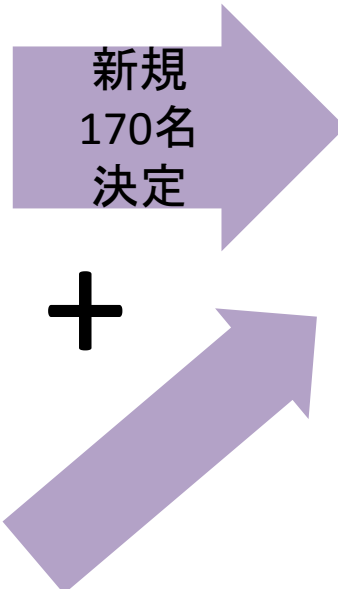
# 平成29年度における卓越研究員事業の状況（平成29年11月末） <年齢分布>

○年齢分布でみると、決定者における平均年齢が34.1歳と、昨年度の35.2歳から約1歳若くなっている。  
 <分析>今年度から要件緩和し博士論文も研究実績として対象としたことにより、若手の申請が増大した可能性がある。  
 ※一覧化公開ポスト提示機関及び卓越研究員候補者に対して、アンケート調査を実施し、当該結果を分析中

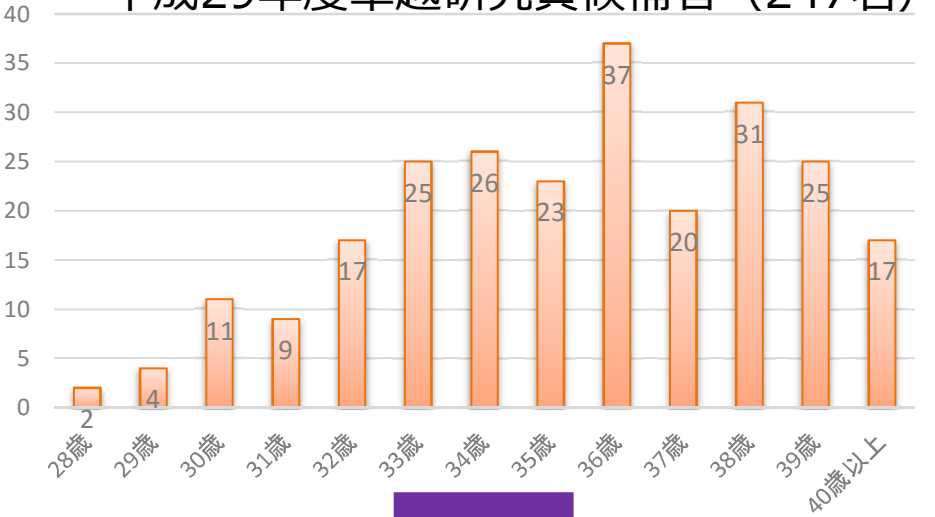
(人) 平成29年度申請者 (517名)



※臨床研修を課された医学系分野、出産又は育児による研究中断により、年齢要件に配慮した結果、40歳を超えたものを含む

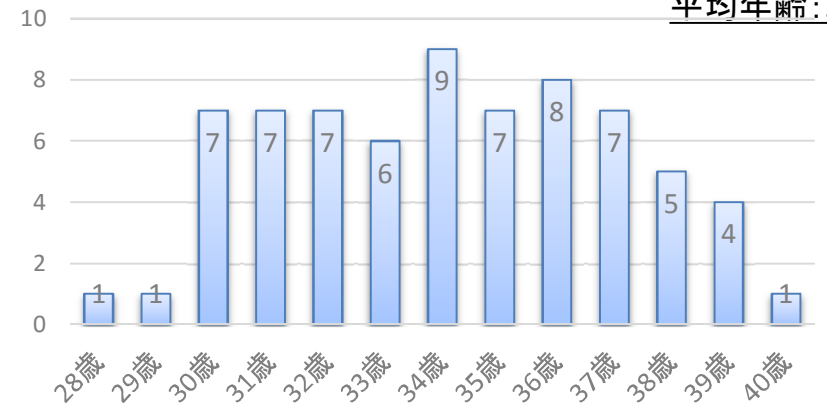


(人) 平成29年度卓越研究員候補者 (247名)

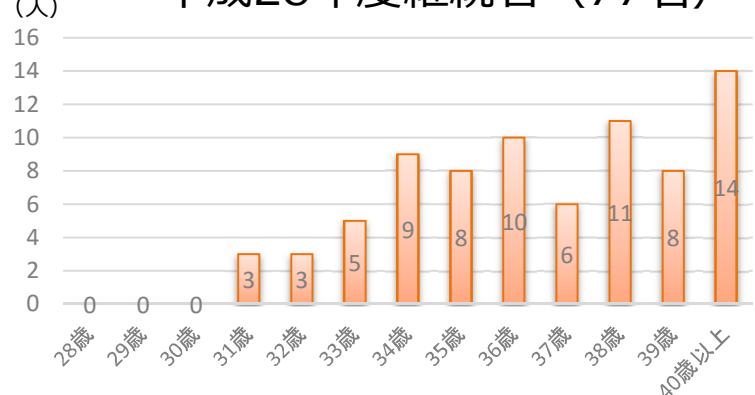


(人) 平成29年度卓越研究員決定者 (70名)

平均年齢: 34.1歳



(人) 平成28年度継続者 (77名)



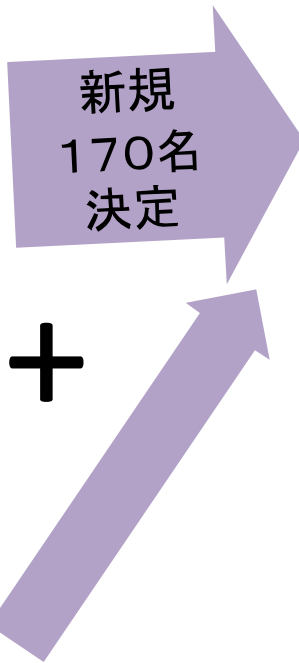
※申請者の年齢要件は、平成30年4月1日現在、40歳未満（ただし、臨床研修を課された医学系分野、出産又は育児による研究中断により、年齢要件も配慮した結果、40歳を超えたものを含む。）の者。（平成28年度継続者については、平成29年4月1日現在の年齢から+1歳で集計）

# 平成29年度における卓越研究員事業の状況（平成29年11月末） <国籍等>

○決定者のうち、海外所属の日本国籍の者については、20%と高い割合を占めており、卓越研究員候補者に対する決定者の割合でも、31.1%と非常に高い決定率となっている。

平成29年度申請者  
所属機関国外別<計 517件>

国籍	総計	海外所属	国内所属
日本国籍	450	74	376
全体	517	14.3%	72.7%
外国籍	67	3.7%	9.3%
		19	48



平成28年度継続者  
所属機関国外別<計 77件>

国籍	総計	海外所属	国内所属
日本国籍	75	11	64
全体	77	14.3%	83.1%
外国籍	2	0.0%	2.6%
		0	2

平成29年度卓越研究員候補者 所属機関国外別<計 247名>

国籍	総計	海外所属	国内所属
日本国籍	237	45	192
全体	247	18.2%	77.7%
外国籍	10	0.4%	3.6%
		1	9

平成29年度卓越研究員決定者 所属機関国外別<計 70名>

国籍	総計	海外所属	国内所属
日本国籍	68	14	54
全体	70	20%	77.2%
外国籍	2	1.4%	1.4%
		1	1

平成29年度候補者に対する決定者の割合

国籍	海外所属	国内所属
日本国籍	31.1% (14/45)	28.1% (54/192)
外国籍	100% (1/1)	11.1% (1/9)

## 2. 事業実施状況

### ②平成28年度事業

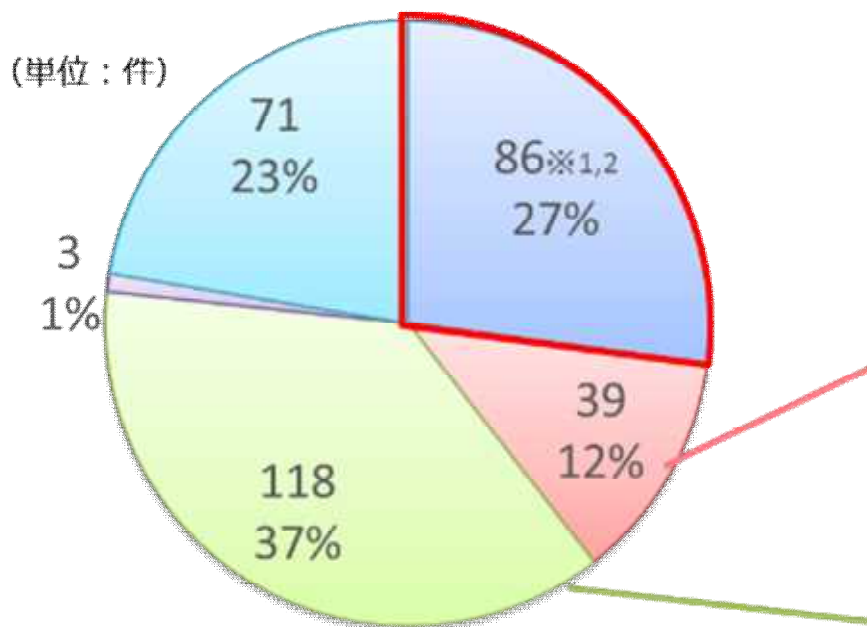
# 平成28年度における卓越研究員事業の実施状況

○平成28年度の卓越研究員事業において、一覧化公開された317件のポストのうち、86件において、安定かつ自立した研究環境を得た若手研究者（87名※）を卓越研究員として決定。

※平成29年4月1日時点までに研究機関を異動した者2名を含む。

○また、残りのポスト（231件）のうち、少なくとも33件において、卓越研究員としてではないものの、若手研究者（34名）を受け入れている。（平成29年4月1日時点）

平成28年度卓越研究員事業において一覧化公開されたポスト(317件(92機関))の状況(H29.4.1現在)



- 卓越研究員候補者を受け入れ、当該者が卓越研究員に決定された
- 卓越研究員候補者以外の研究者を受け入れた
- 研究者は受け入れていない
- その他
- 不明(未回答)

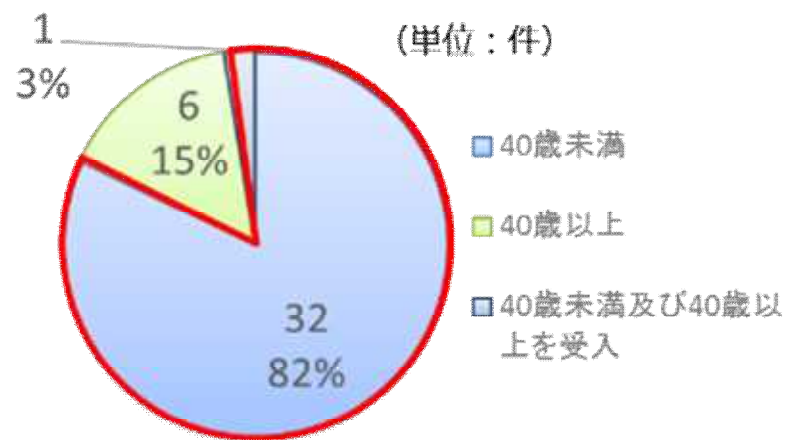
※1 ポスト1件当たり2名決定したポストあり

※2 H29.4.1現在で機関異動が生じたポスト2件を含む

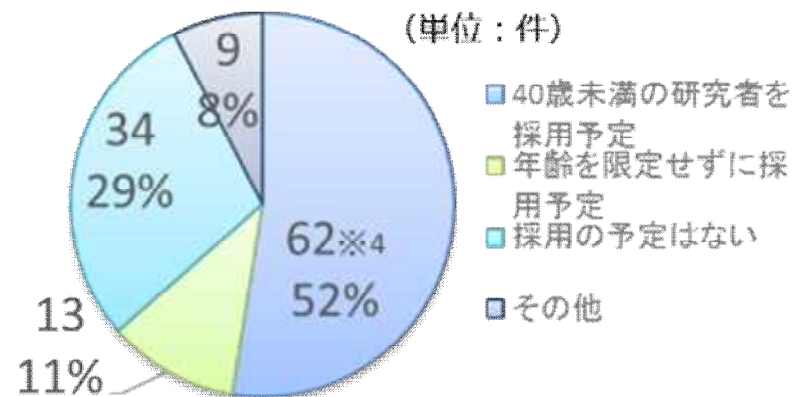
※3 40歳未満の者には、臨床研修を課された医学系分野の43歳未満の者を含む

※4 62件のうち、57件は平成29年度卓越研究員事業においてポスト一覧化公開済み

卓越研究員候補者以外を受け入れたポスト(39件)の研究者の年齢内訳(※3)



研究者は受け入れていないポスト(118件)の今後の活用予定



出典: 文部科学省作成

# 平成28年度卓越研究員事業への機関からのポスト提示状況

●国立大学（58機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
1北海道大学	4	2
2室蘭工業大学	1	1
3帯広畜産大学	1	
4弘前大学	1	
5岩手大学	1	1
6東北大学	3	
7秋田大学	1	
8山形大学	5	4
9茨城大学	2	1
10筑波大学	2	1
11宇都宮大学	4	1
12群馬大学	2	1
13埼玉大学	2	
14千葉大学	6	3
15東京大学	23	7
16東京医科歯科大学	1	1
17東京農工大学	4	3
18東京芸術大学	1	
19東京工業大学	3	
20お茶の水女子大学	2	
21一橋大学	1	1
22横浜国立大学	2	1
23新潟大学	2	
24長岡技術科学大学	4	1
25富山大学	1	
26金沢大学	7	2
27福井大学	4	2
28山梨大学	3	2
29信州大学	2	1
30岐阜大学	1	

●企業（23機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
69豊田自動織機	1	
70三菱電機	4	
71日立製作所	7	
72富士通研究所	1	
73第一三共	4	
74ユーグレナ	3	
75富士フイルム	1	1
76日産アーク	2	
77NEC	1	
78キヤノン	4	
79トヨタ自動車	1	
80JFEスチール	15	

	平成28年 申請	平成28年 決定
31静岡大学	1	
32浜松医科大学	1	
33名古屋大学	4	2
34名古屋工業大学	1	1
35豊橋技術科学大学	1	1
36三重大学	2	
37滋賀医科大学	1	1
38京都大学	15	5
39京都工芸繊維大学	2	2
40大阪大学	6	3
41神戸大学	4	1
42鳥取大学	1	
43島根大学	2	1
44広島大学	3	
45山口大学	2	
46徳島大学	1	
47香川大学	2	
48高知大学	1	1
49九州大学	7	2
50九州工業大学	2	1
51佐賀大学	2	1
52長崎大学	7	2
53熊本大学	5	3
54宮崎大学	5	
55鹿児島大学	4	1
56政策研究大学院大学	1	1
57北陸先端科学技術大学院大学	1	
58奈良先端科学技術大学院大学	1	1
計	181	66

	平成28年 申請	平成28年 決定
81日本電子	1	
82住友化学	1	1
83住友電気工業	22	1
84ソニーコンピュータサイエンス研究所	1	1
85アステラス製薬	4	
86旭化成	1	
87JXエネルギー	1	
88日産自動車	10	
89飯田グループホールディングス	3	
90ニコン	1	
91パナソニック	7	1
計	96	5

●公立大学（2機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
59大阪市立大学	4	1
60大阪府立大学	2	
計	6	1

●私立大学（3機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
61早稲田大学	1	
62東海大学	1	1
63順天堂大学	1	
計	3	1

●大学共同利用機関（2機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
64人間文化研究機構	2	1
65高エネルギー加速器研究機構	2	2
計	4	3

●国立研究開発法人（3機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
66宇宙航空研究開発機構	1	1
67産業技術総合研究所	18	9
68物質・材料研究機構	7	1
計	26	11

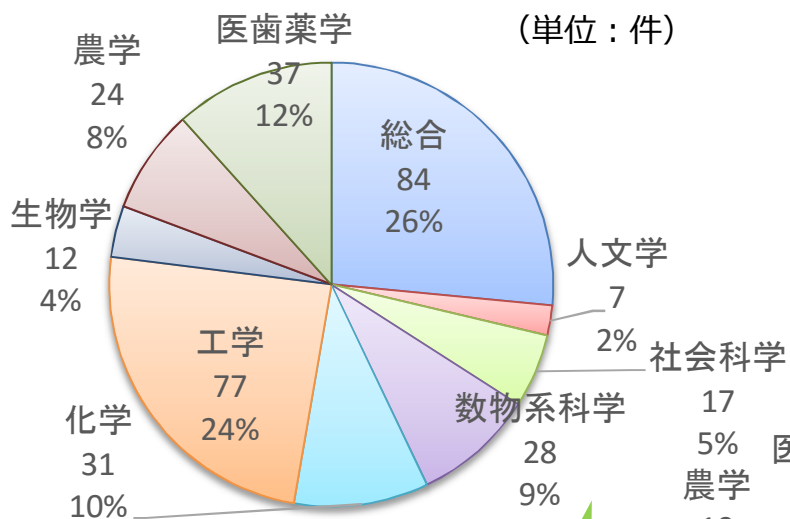
●社団・財団法人（2機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
92公益財団法人がん研究会	1	
計	1	0

●全体（92機関）	平成28年 申請	平成28年 決定
計	317	87

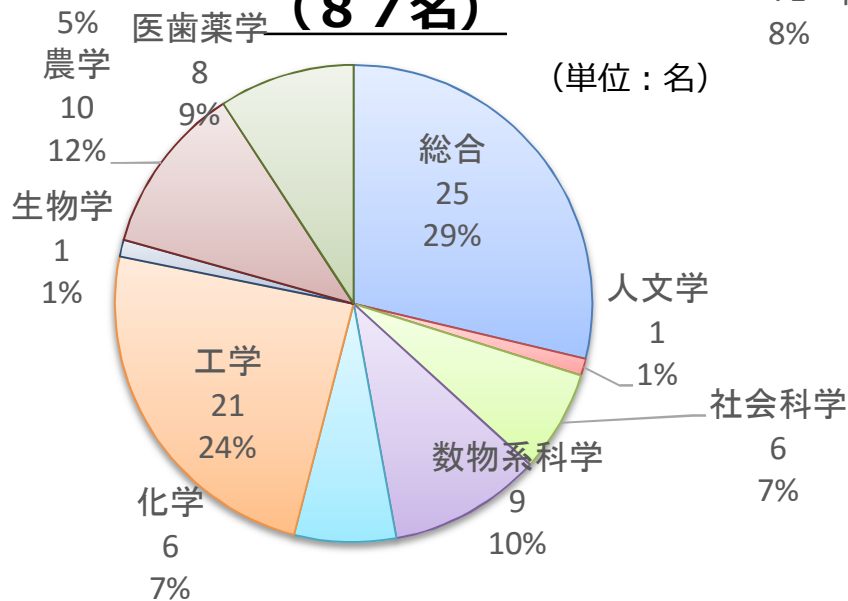
※産業技術総合研究所においては、  
1ポストに対して2名採用したポストが2ポスト

# 平成28年度における卓越研究員事業の状況（分野別）

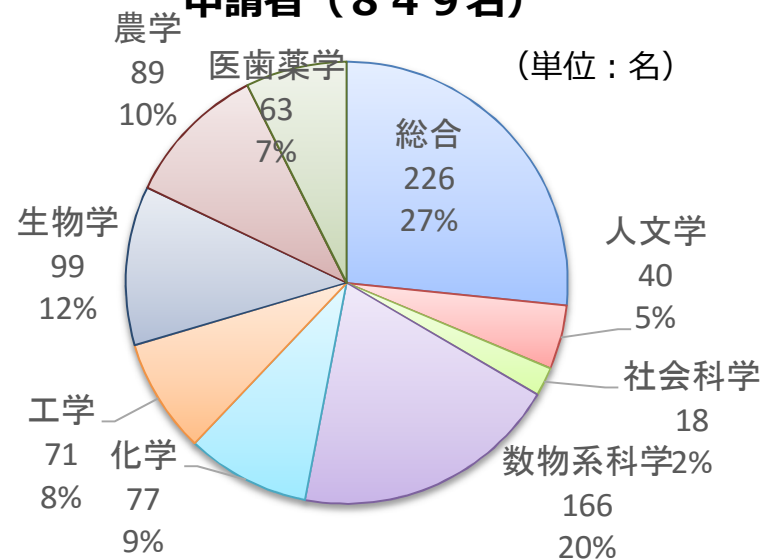
## 一覧化公開ポスト（317件）



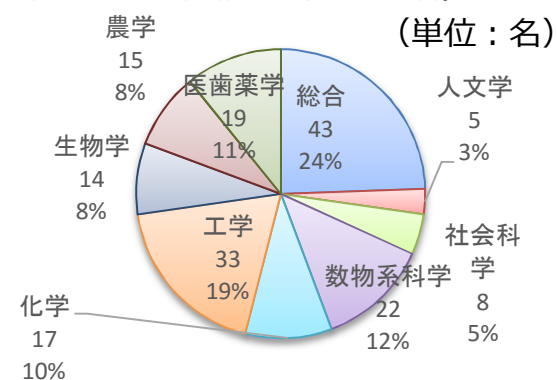
## 卓越研究員（87名）



## 申請者（849名）



## 卓越研究員候補者（176名）



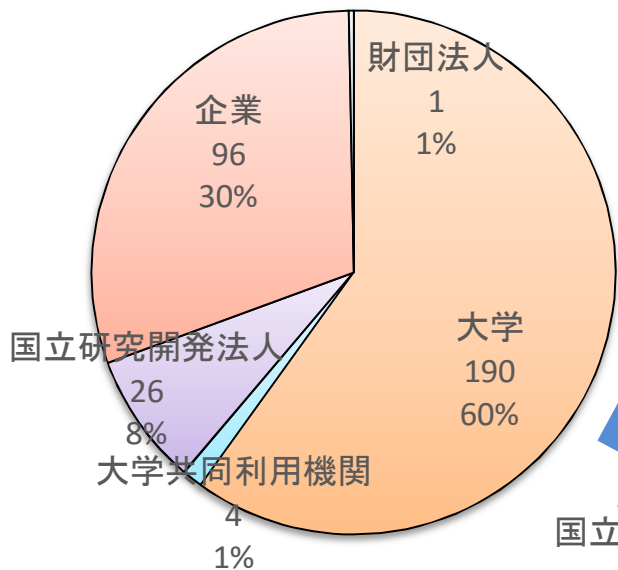
平成28年度卓越研究員事業

分野	総合	人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学	生物学	農学	医歯薬学	合計
一覧化公開ポスト	84	7	17	28	31	77	12	24	37	317
H28卓越研究員候補者	43	5	8	22	17	33	14	15	19	176
H28卓越研究員決定者(※)	25	1	6	9	6	21	1	10	8	87

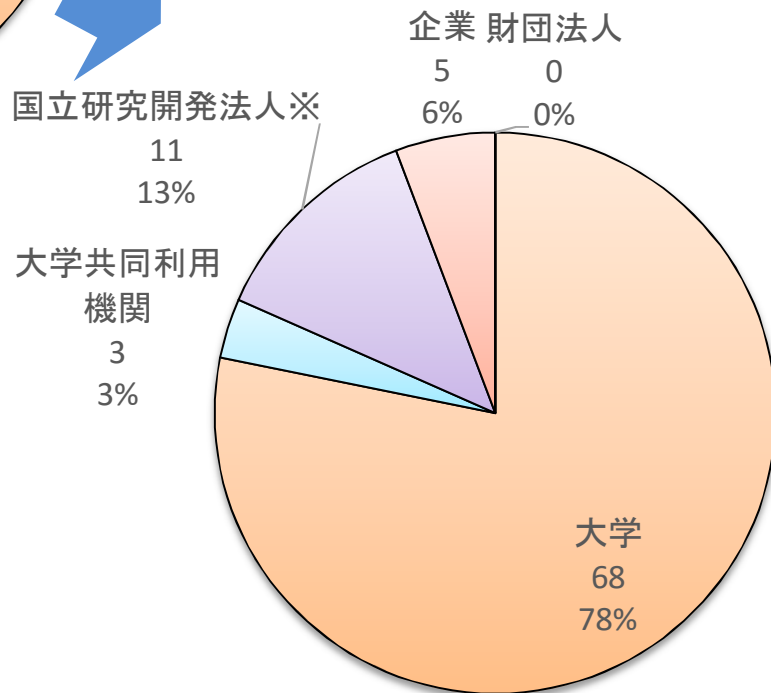
(※)一つのポストにつき、2名を決定したポスト1件あり。

# 平成28年度卓越研究員決定状況（機関種）

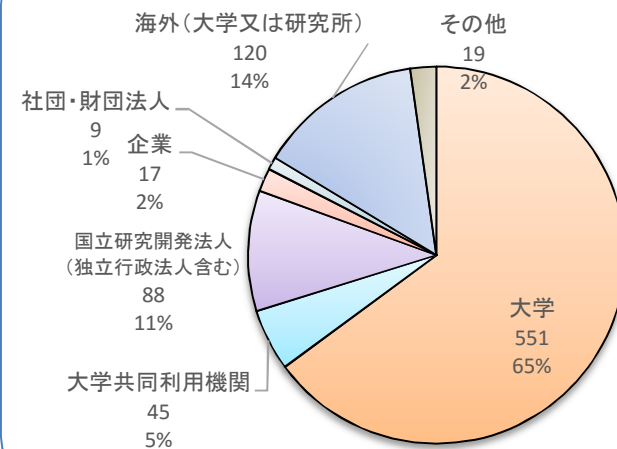
一覧化公開ポスト提示機関  
(317ポスト)



卓越研究員(87名)  
を受け入れた機関種



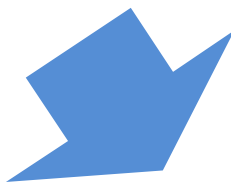
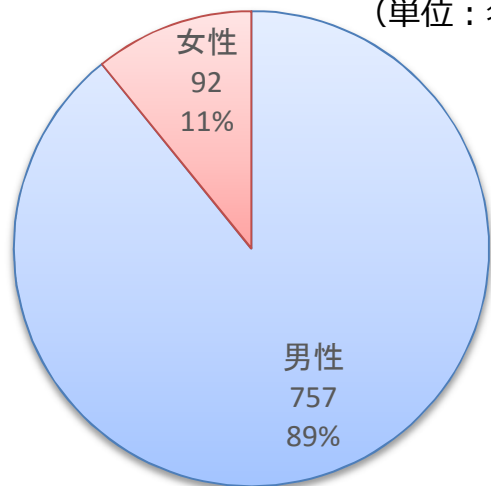
(参考) 申請者の所属機関  
(849名)



# 平成28年度における卓越研究員事業の状況（性別）

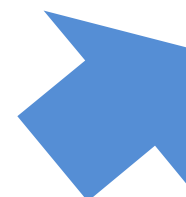
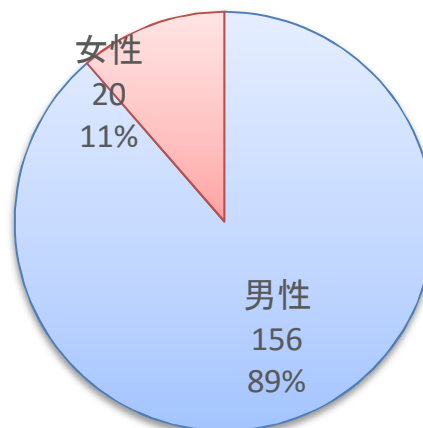
## 申請者（849名）

（単位：名）



## 卓越研究員候補者（176名）

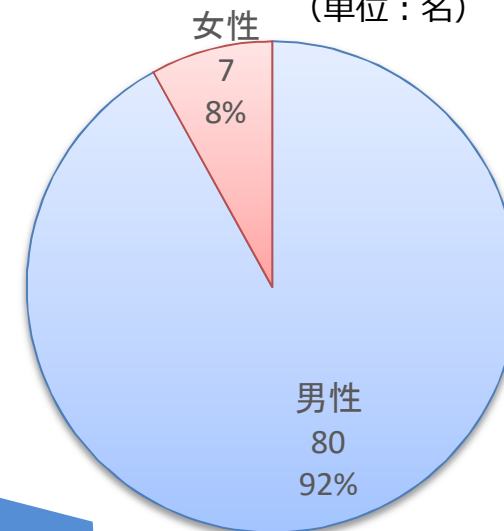
（単位：名）



## 卓越研究員

### （87名）

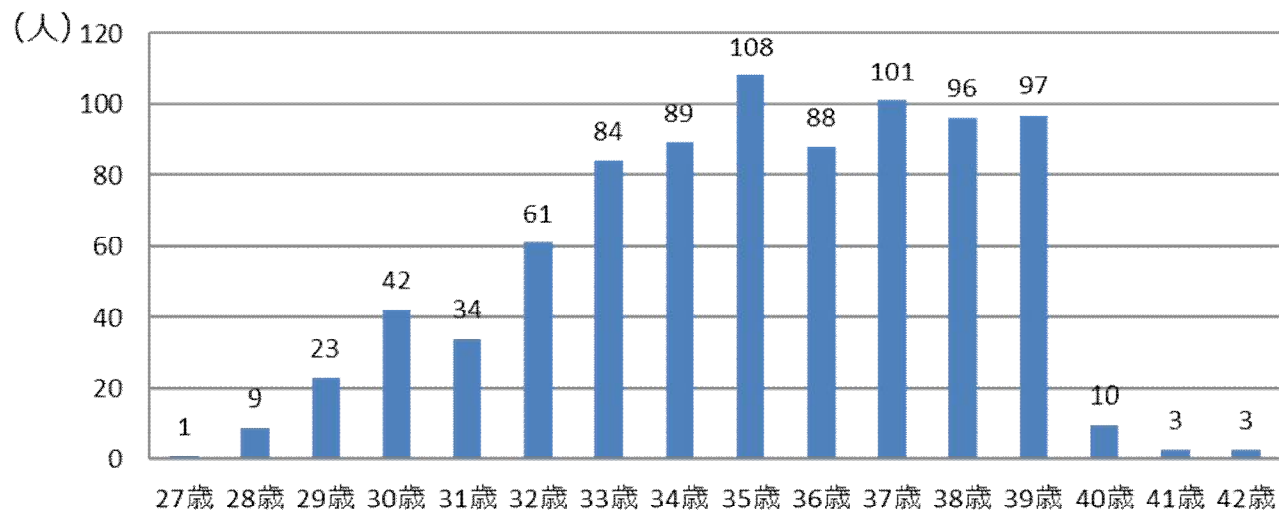
（単位：名）



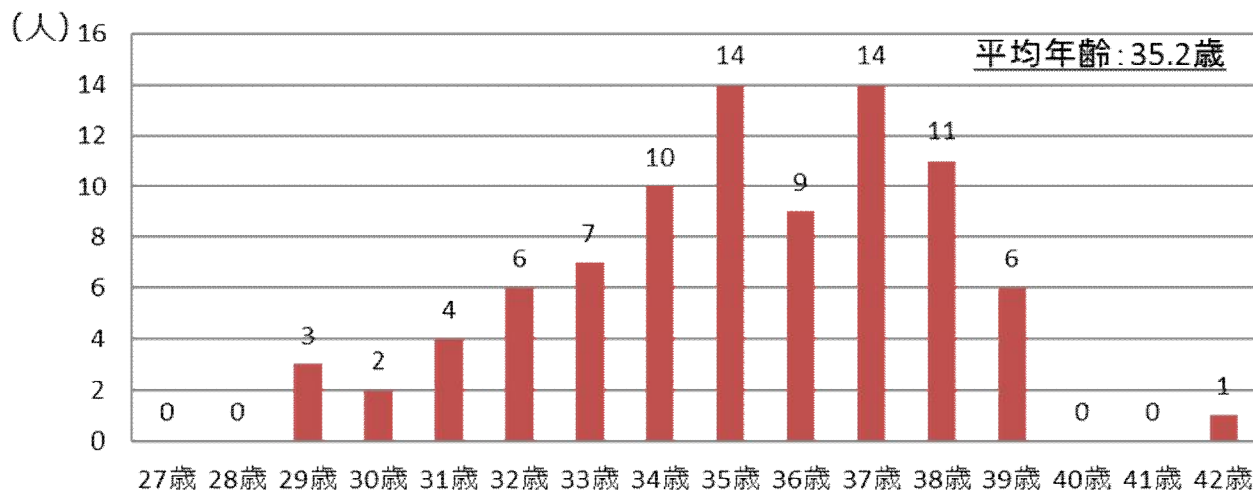


# 平成28年度における卓越研究員事業の状況（年齢分布）

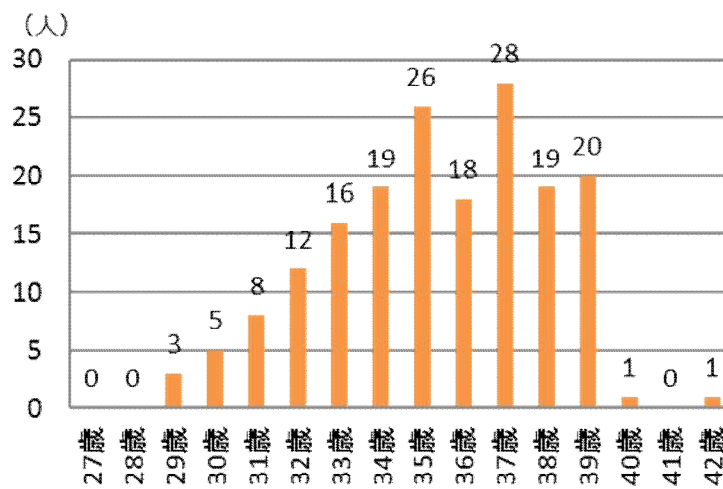
## 申請者（849名）



## 卓越研究員（87名）



## (参考) 卓越研究員候補者（176名）

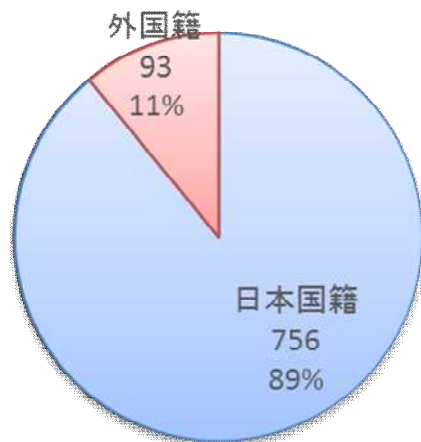


※申請者の年齢要件は、平成29年4月1日現在、40歳未満（ただし、臨床研修を課された医学系分野においては43歳未満）の者。出典：文部科学省作成

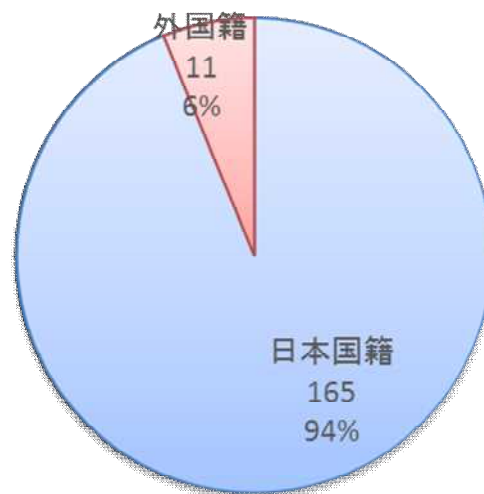
# 平成28年度における卓越研究員事業の状況（国籍等） ※国籍情報のみ

申請者(849名)

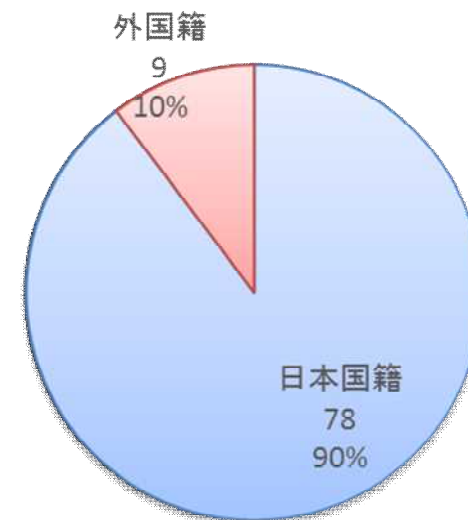
(単位：名)



卓越研究員候補者(176名)



卓越研究員(87名)



## 3. 事業アンケート

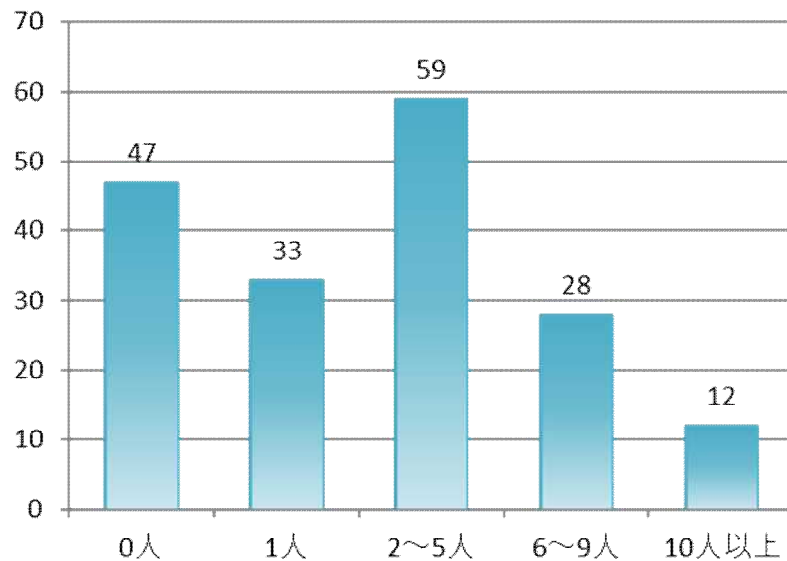
### ①研究機関対象

#### A.平成29年10月実施

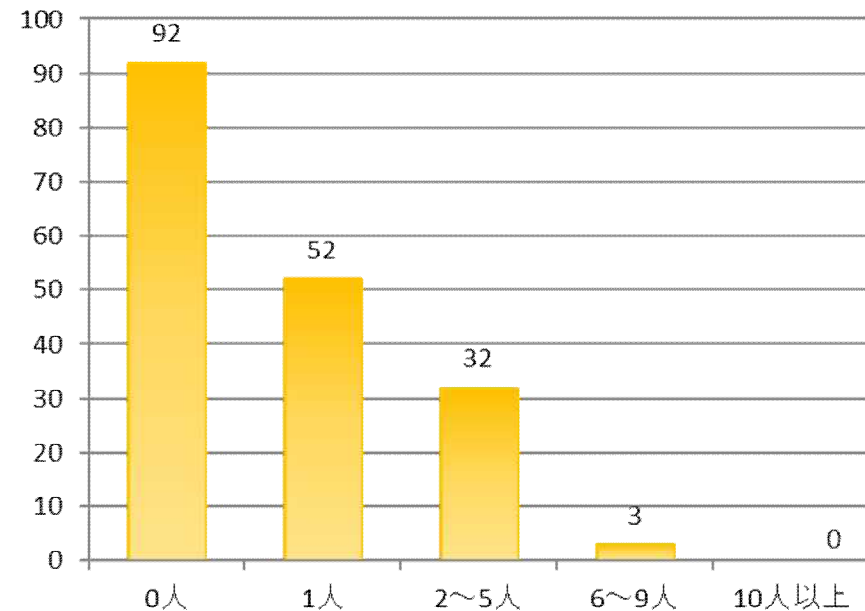
# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況①）

平成29年度卓越研究員事業においてポストの一覧化公開を行った機関に対して、当事者間交渉状況等についてアンケートを実施（H29.10実施 対象数：72機関・204ポスト、回答数：61機関・179ポスト（回答率88%(ポスト)）

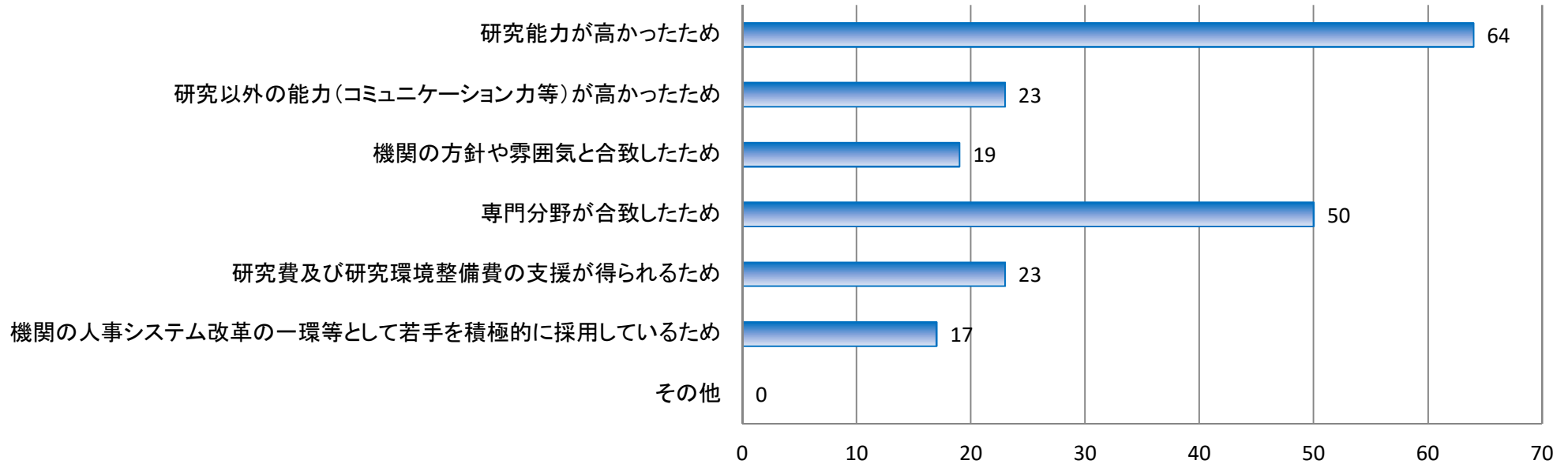
＜当事者間交渉を行った候補者の数＞



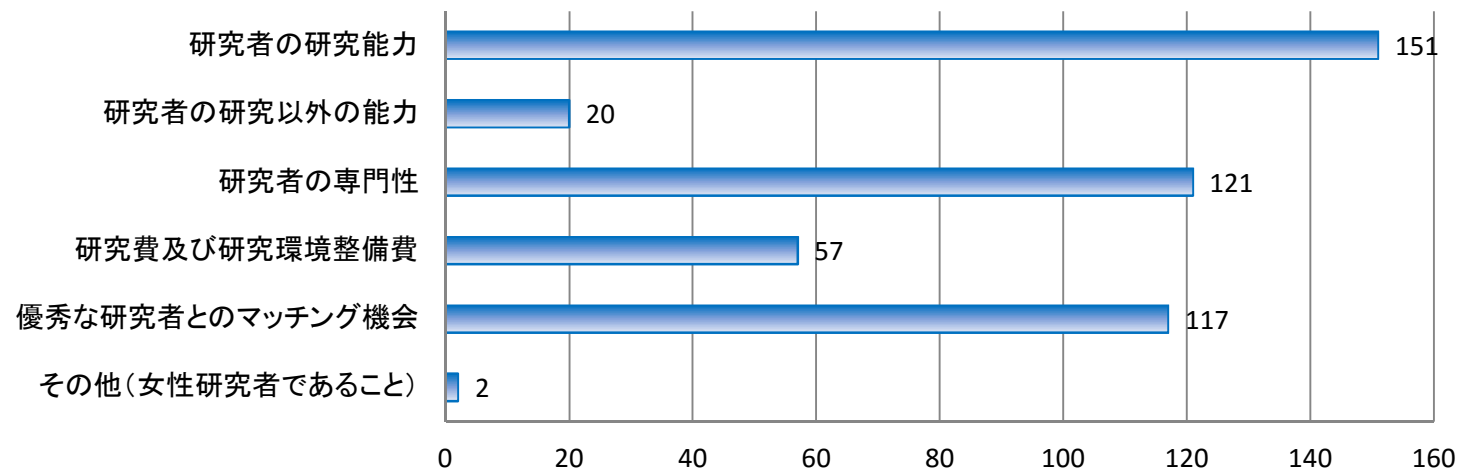
＜機関側から連絡した候補者の数＞



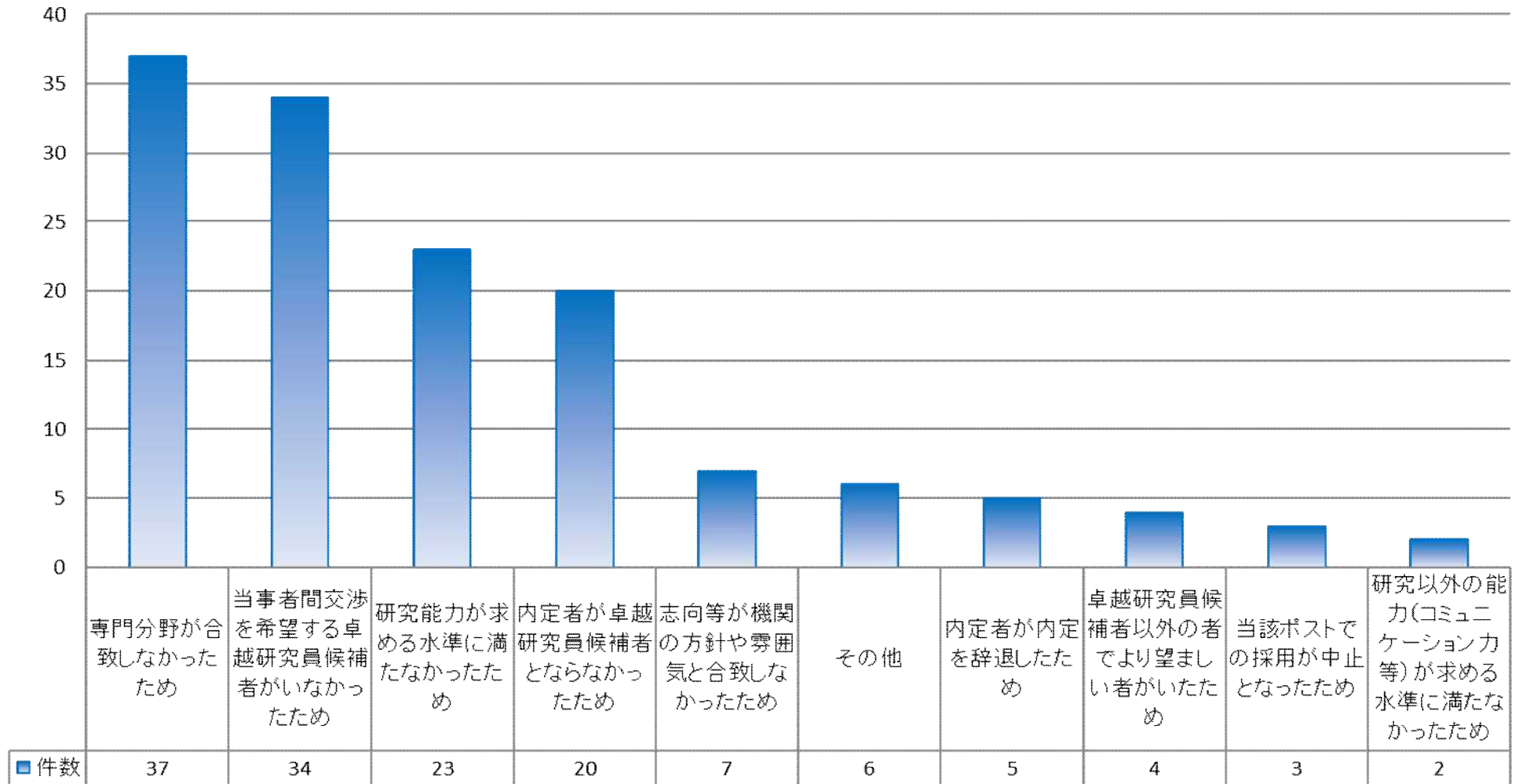
## ＜卓越研究員候補者を内定者として決定した主な理由（複数回答可）＞



## ＜研究研究員事業へのポスト提示に際して期待していたこと（複数回答可）＞



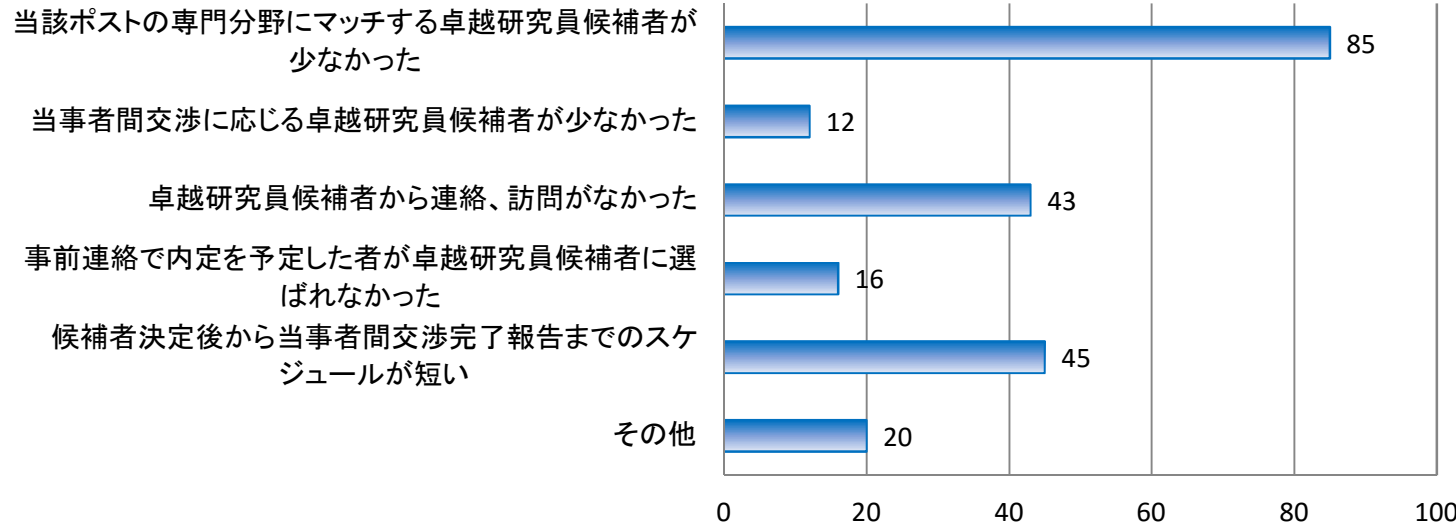
＜卓越研究員候補者を内定者としなかった理由（複数回答可）＞



その他の内容

- ・選考結果が出る前に採用審査の途中で本人が辞退した
- ・研究分野不整合+能力不足
- ・候補者に連絡したが、返信がなかった など

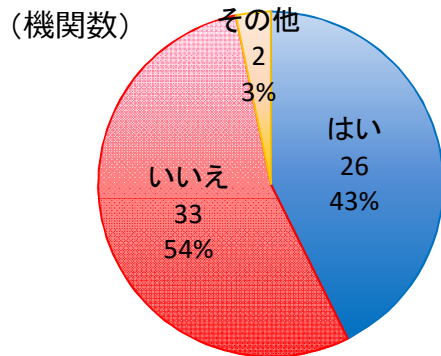
## ＜当事者間交渉で困ったこと（複数回答可）＞



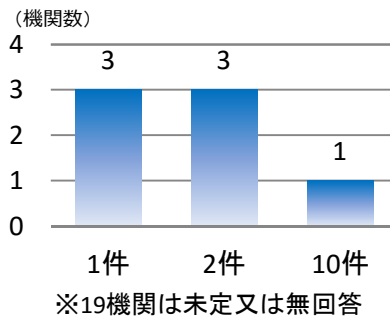
### その他の内容

- ・候補者からの応募がなかった
- ・28年度候補者の取扱いに曖昧な部分があった
- ・候補者の選定基準が不明瞭であった
- ・候補者を指導する学内研究者の人選が難しかった
- ・期待する業績がある者がいなかった
- ・公募(選考)期間が短い など

## ＜ポストを年複数回提示可能とした場合、ポスト提示増に繋がると考えるか＞



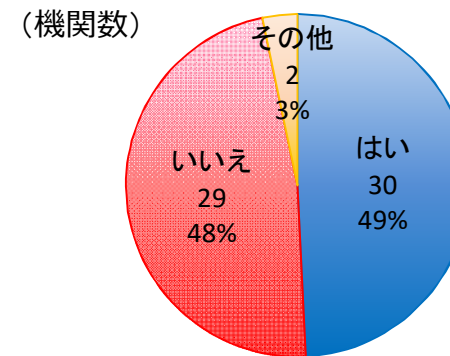
## ＜「はい」と回答した場合の増加見込みポスト件数＞



### その他の内容

- ・通年であれば他のポストを提示できる可能性がある
- ・中途での取り下げ可能になるのは良いが、件数が増加するとは言えない
- ・制度が利用しやすくなる可能性があるが、ポスト提示の増加につながるかはわからない
- ・後半にもう1回または、3月に4月に追加のポスト提示を希望 など

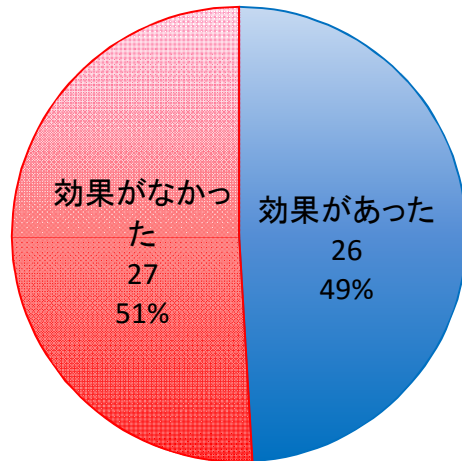
## ＜申請段階で申請者情報を公開する方がポストの提示増に繋がると考えるか＞



### その他の内容

- ・提示ポストの増加に繋がるとは無いと思うが、応募者が申請を躊躇する可能性や個人情報保護の観点で懸念される
- ・ポスト提示には繋がらないが、どのような応募者が居るのかを知りたい
- ・制度が利用しやすくなる可能性があるが、ポスト提示の増加につながるかはわからない など

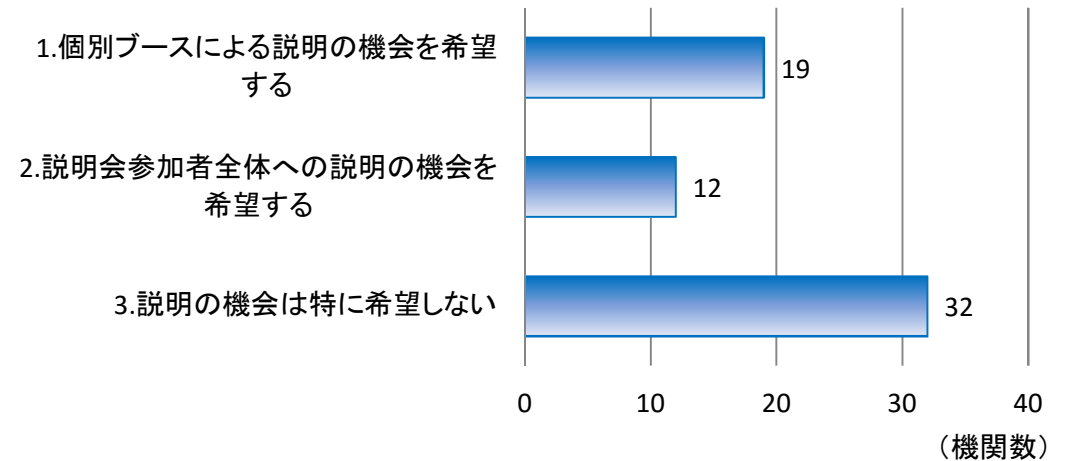
## ＜平成29年度研究者向け説明会の効果があったか（参加機関・ポストのみ回答）＞



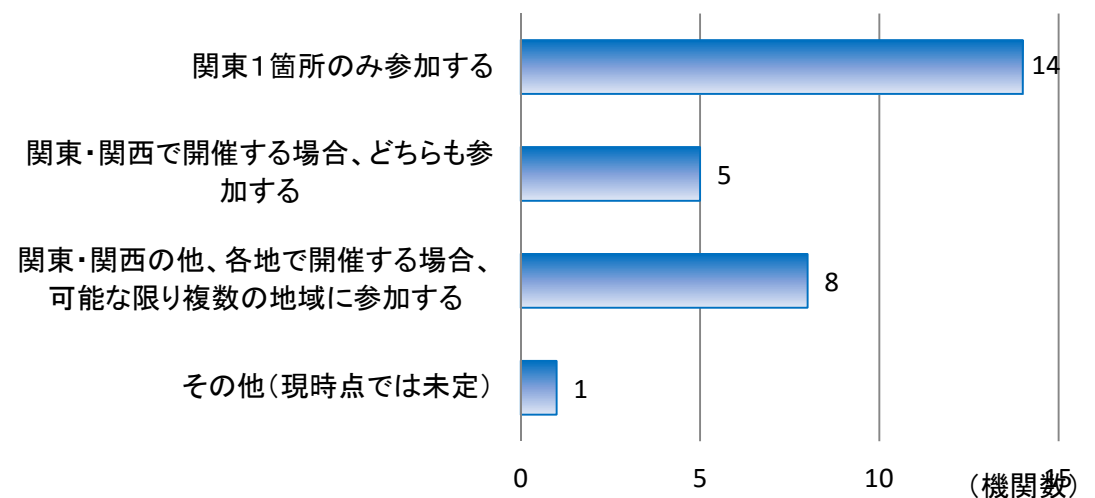
### どのような効果があったか

- ・機関・ポストへ関心を持ってもらった（4件）
- ・説明会参加者からの応募に繋がった（3件）
- ・候補者と直接情報交換ができた（2件）
- ・機関・ポストへの関心度を把握できた
- ・事前に説明をすることでミスマッチを防げた など

## ＜次年度研究者向け説明会への参加希望＞



## ＜開催地域別の研究者向け説明会参加希望＞





# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況⑥）

## ○主な意見（改善希望事項等）

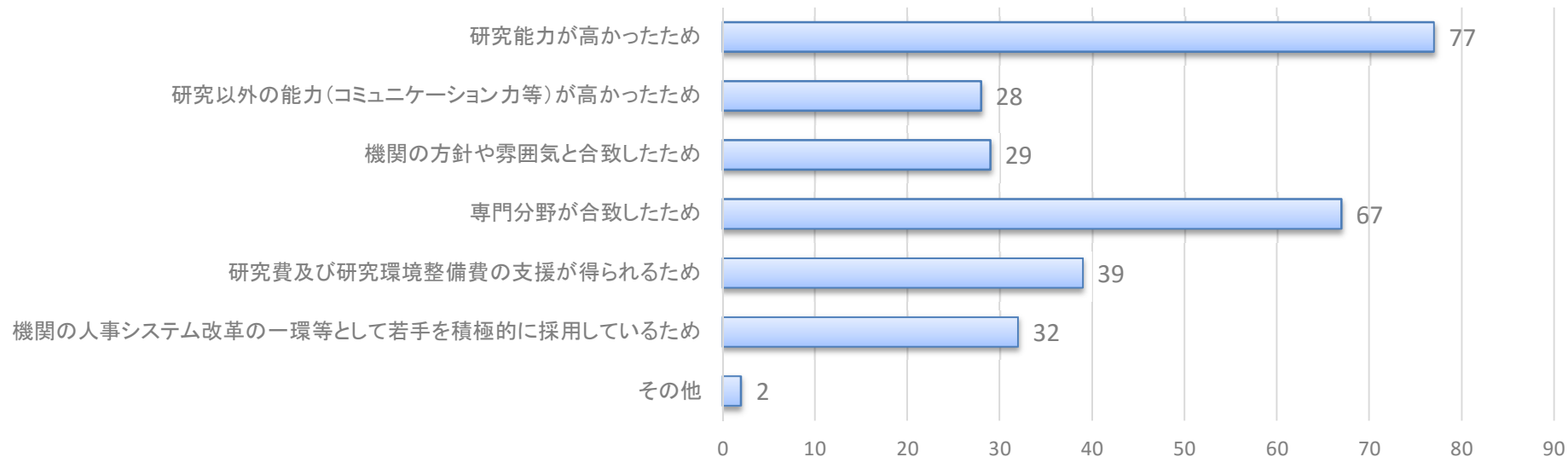
	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スケジュールがタイトであり、見直し（公募の早期化など）や柔軟化が必要。（5件）</li> <li>○機関がポスト提示できる時期を増やすべき。（随時、候補者決定後）（2件）</li> <li>○10月ポスト公募や4月着任のスケジュールも加えるなど、スケジュールに工夫が必要。（2件）</li> <li>○ポストの研究分野・分科を複数指定出来るようにするなど、ポスト情報に柔軟性を持たせられないか。（2件）</li> </ul>
B	卓越研究員候補者の選考に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○候補者の選考の基準を明確にすべき。（又は基準に疑問がある）（3件）</li> <li>○候補者の選考において、業績や研究能力以外の能力・将来性も鑑みた審査を行うべき。（2件）</li> </ul>
C	当事者間交渉に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポストに対して分野が一致する候補者が少ないため、候補者の構成（分野・年齢等の）を工夫すべき。（2件）</li> </ul>
D	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究環境整備費を建物の改修など使える範囲を広げられないか。（2件）</li> <li>○採用と同時に補助金を使用できるように、又は交付決定のスケジュールを早められないか。（2件）</li> </ul>

3. 事業アンケート  
①研究機関対象  
B.平成29年3月実施

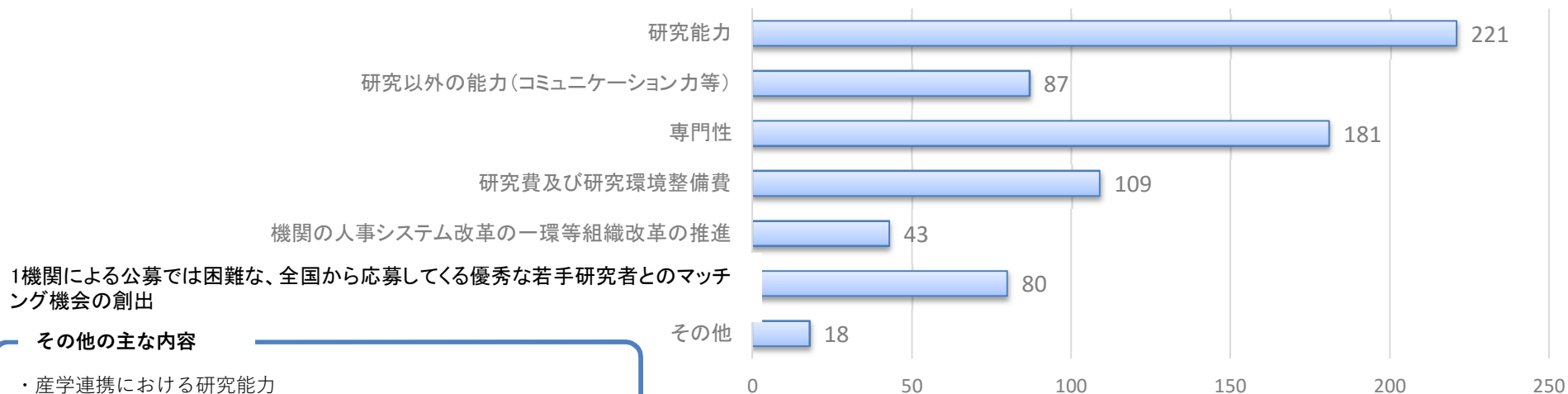
## 2 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における雇用調整状況①）

平成28年度の卓越研究員事業にポストを提示した研究機関に対して、雇用調整状況等についてアンケートを実施（H29.3実施 対象数：92機関・317ポスト、回答数：75機関・238ポスト（回答率：75%(ポスト)））。

### <卓越研究員候補者を受け入れた主な理由（複数回答可）>



### <ポストの提示に当たり卓越研究員事業に期待していたこと（複数回答可）>

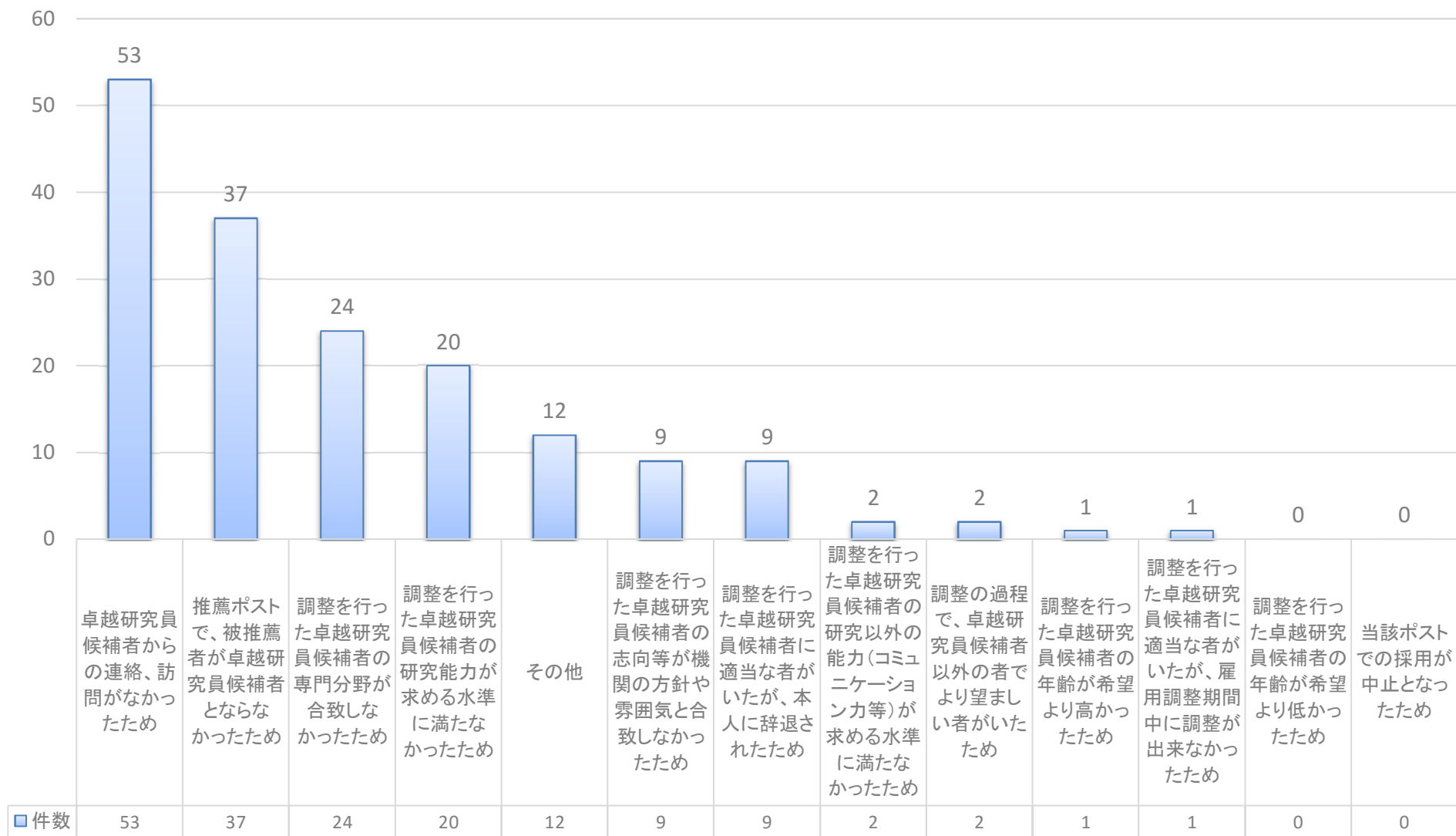


#### その他の主な内容

- ・産学連携における研究能力
- ・日本学における国際教育対応力の強化 など

## 2 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における雇用調整状況②）

### <卓越研究員候補者を受け入れなかった主な理由（複数回答可）>

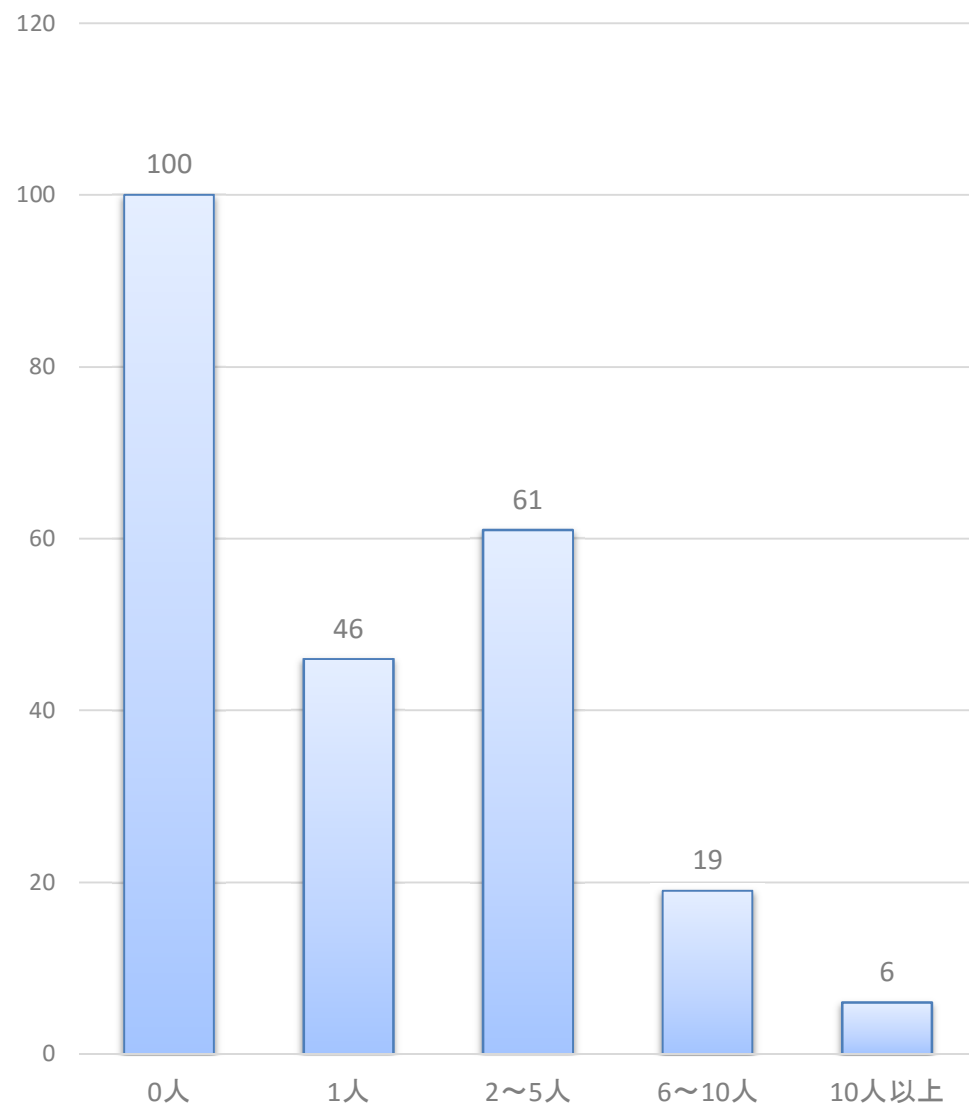


#### その他の主な内容

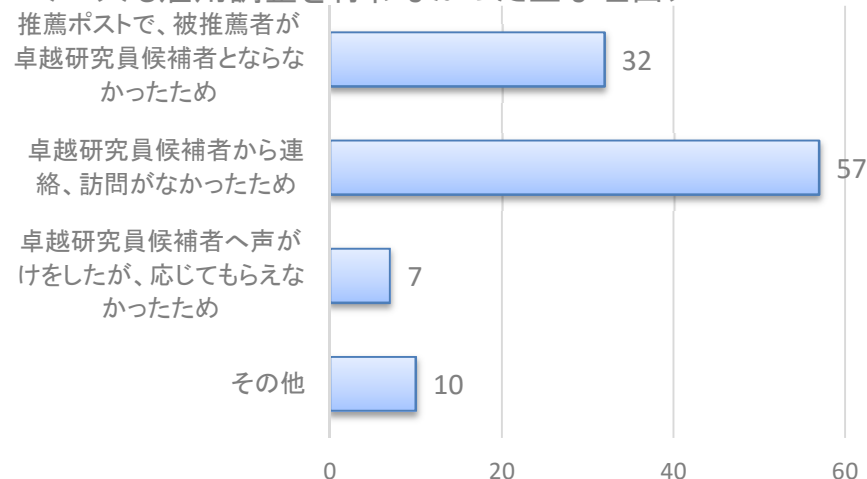
- ・推薦ポストで、提示していた推薦者が候補者に選定されなかったため
- ・候補者に声掛けしたが、応じてもらえなかったため など

## 2 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における雇用調整状況③）

＜雇用調整を行った卓越研究員候補者の人数＞



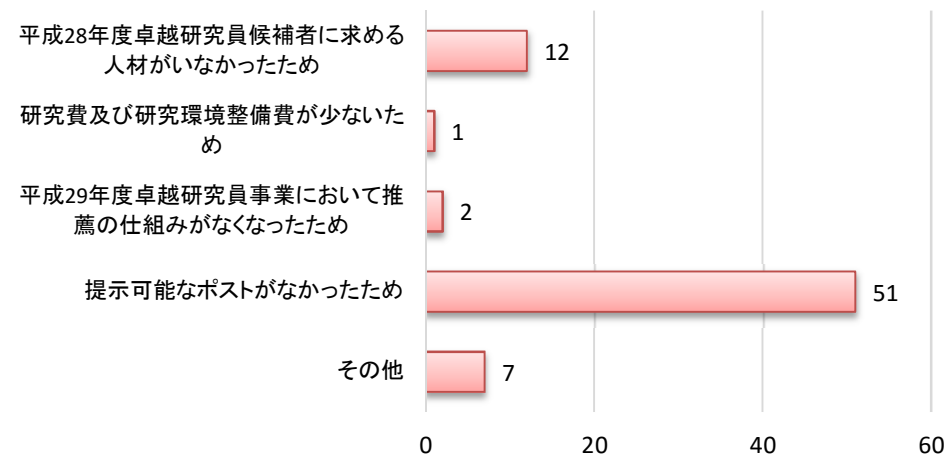
＜一人も雇用調整を行わなかった主な理由＞



その他の主な内容

- ・候補者の研究能力が機関が求める水準に満たなかったため
- ・推薦ポストとして提示していたが、推薦者がいなかったため など

＜平成29年度の卓越研究員事業にポストを提示しなかった主な理由（該当機関）＞



## 2 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における雇用調整状況④）

### 【主な意見】

意見分類	主な内容
制度改善全般に関すること	○年齢要件を緩和すべきではないか。(2件) ○制度がわかりづらかった。(5件)
卓越研究員候補者の選考に関すること	○卓越研究員候補者選考結果の理由を示すべきである。(10件) ○卓越研究員候補者の分野に偏りがあった(4件) ○卓越研究員候補者が本当に研究能力があるかどうか疑問。(2件)
雇用調整に関すること	○卓越研究員候補者と研究機関との雇用調整のスケジュールに更なる工夫ができるのではないかと。(13件) ○分野を指定してしまうことにより、より広い分野で活躍する可能性を阻害するのではないかと。(4件)
経費に関すること	○卓越研究員の人件費を支出できるようにすべきではないかと。(5件) ○研究環境整備費を間接経費として扱えないかと(2件)
その他	○若手のアカデミア志向が強かった(4件) ○国の若手研究者政策の拡充が必要(3件)

※上記は、「自由記述」欄に記載された主な意見について、分類・整理したものの。

### 3. 事業アンケート

②研究者対象（卓越研究員候補者）

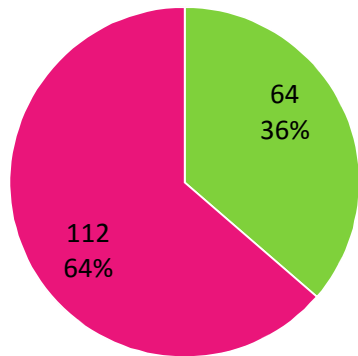
A.平成29年10月実施

# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況①）

平成29年度卓越研究員事業に申請し、卓越研究員候補者となった者、および平成28年度卓越研究員事業に申請して卓越研究員候補者となった者のうち、平成29年度も当事者間交渉を継続する研究者に対して、当事者間交渉状況等についてアンケートを実施  
 （H29.10実施 対象者数：247名、回答者数：176名（回答率71%））

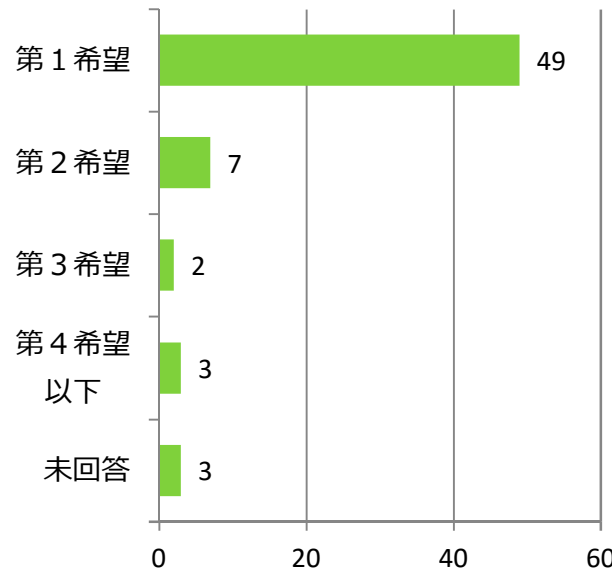
## ○当事者間交渉状況

＜当事者間交渉状況＞



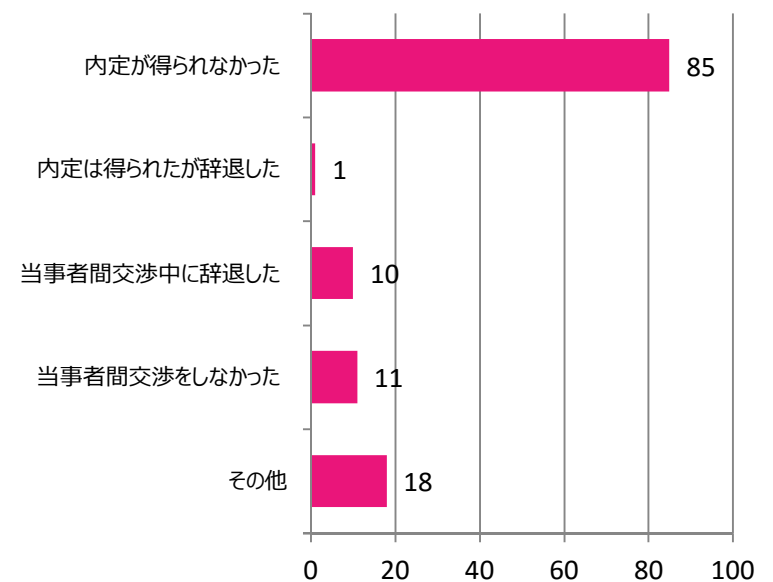
- 1. 当事者間交渉が完了し、採用が決定した
- 2. 当事者間交渉が完了しなかった

＜採用先の希望順位＞



＜当事者間交渉が完了しなかった理由＞

【複数回答可】



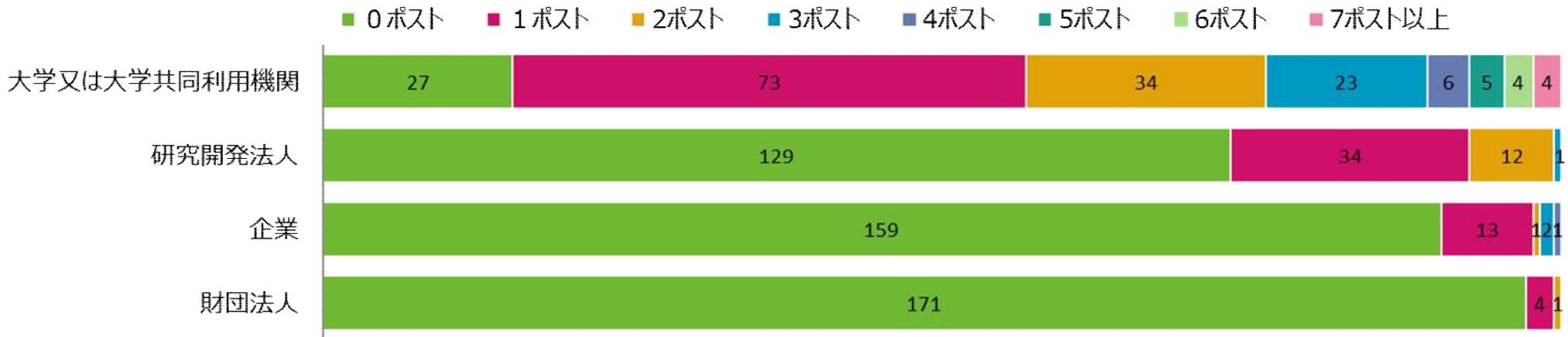
その他の主な内容

- ・卓越研究員事業とは別のポストに内定したため
- ・機関へ連絡したが返信がないまま、交渉終了したことがHP上で告知された
- ・既に内定者が決まっていた。
- ・アカデミック職でテニュアトラック助教に魅力が無い上に数が少なすぎ など



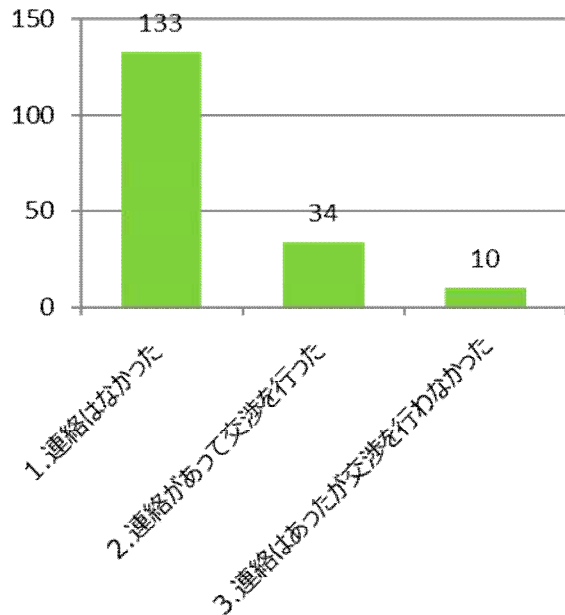
# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況②）

## ＜当事者間交渉を行った機関別ポスト数＞



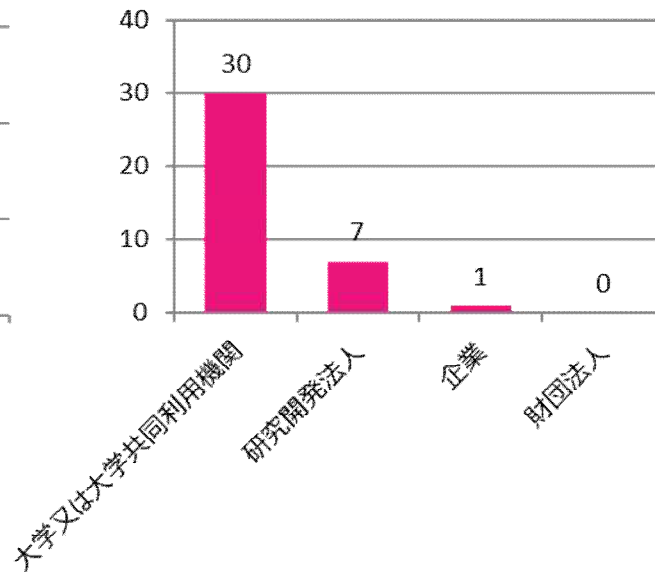
## ＜機関側からの連絡の有無＞

【複数回答可】



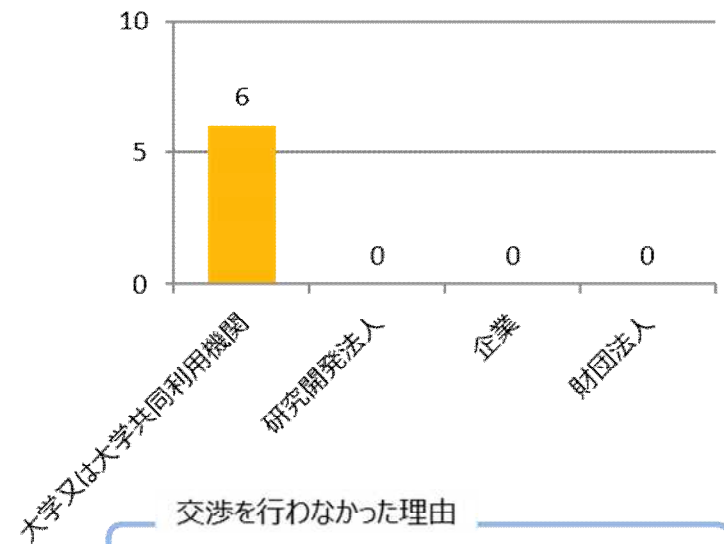
## ＜連絡があつて交渉を行ったポストの機関種別＞

【複数回答可】



## ＜連絡があつたが交渉を行わなかったポストの機関種別＞

【複数回答可】

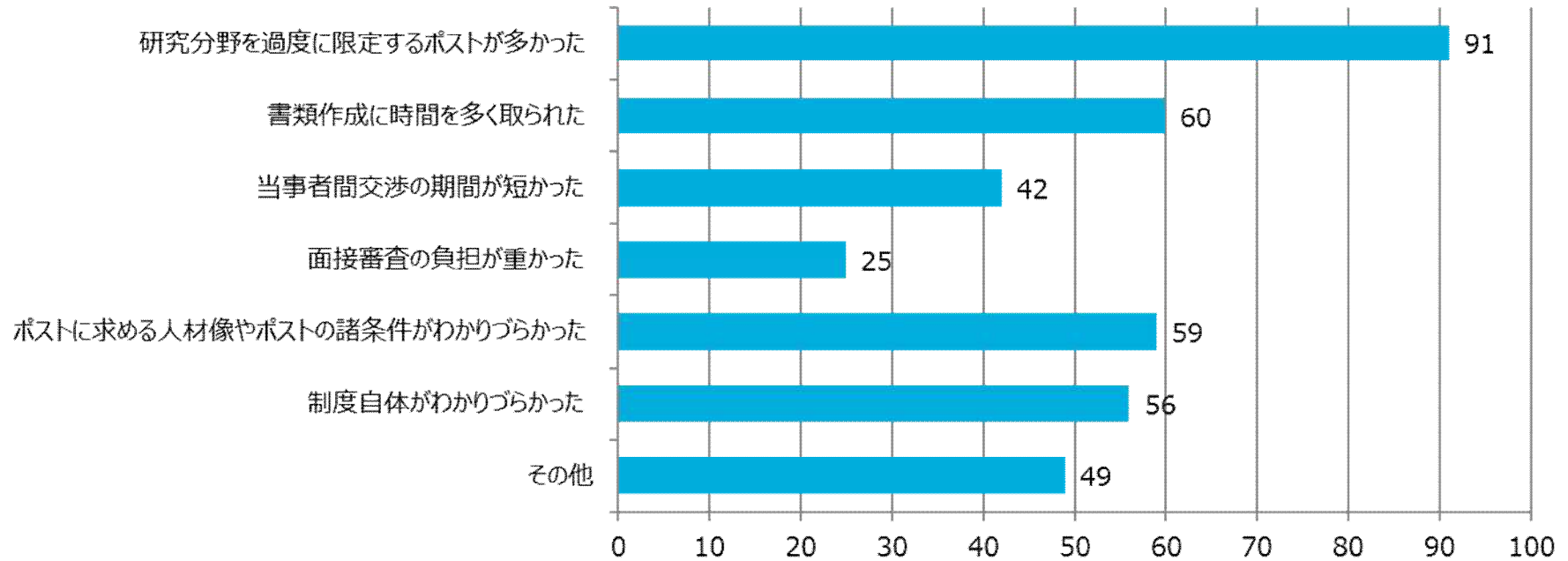


### 交渉を行わなかった理由

- ・他の機関に採用（内定）されたため
- ・希望する職種ではなかった
- ・どうしても良いかが分からなかった など

## ＜当事者間交渉で困ったこと＞

【複数回答可】



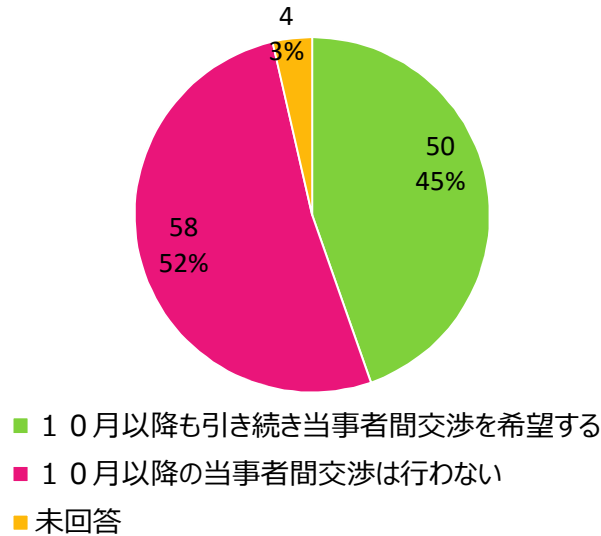
### その他の主な内容

- 自身の専門分野やテーマに合うポストが少ない（12件）
- もともと採用意思が無いと思われる等、不透明・不公正な選考を行う機関がある（10件）
- 事前連絡が必要で希望ポストに申し込めないなど、制度が複雑（5件）
- スケジュール（採用選考の時間が長い、候補者決定後のポストへの連絡期間が短い）（4件）
- 希望の雇用条件（職位、雇用形態）のポストが少ない（3件）
- 書類作成が二度手間（3件）
- 機関に申込や問い合わせをしても返信が無い（3件）
- 機関の面接選考に進めなかった（面接の機会をもらえなかった）（3件）
- 採用条件等、機関からの情報が十分に得られなかった（2件）

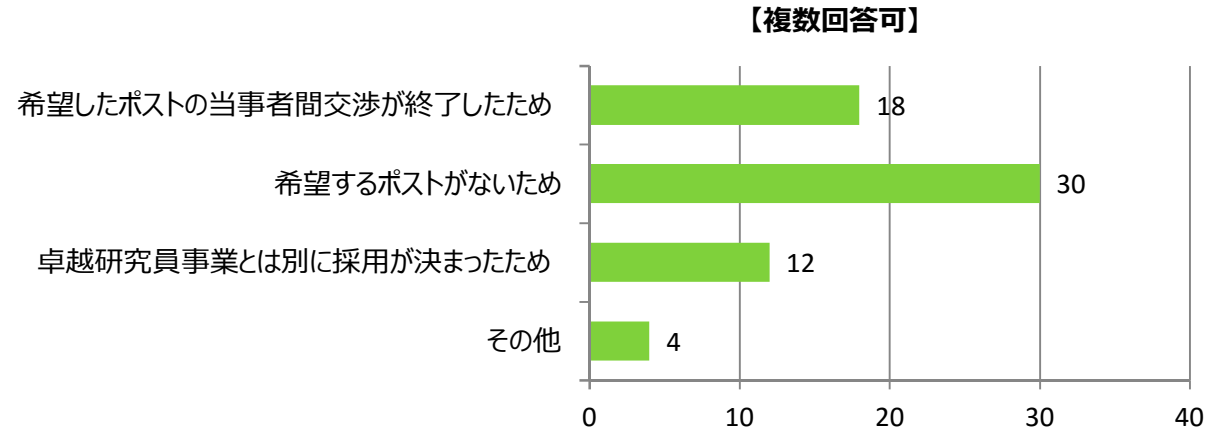
# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況④）

○今後の予定 ※質問対象者：当事者間交渉が完了していないと回答した112名

## <10月以降の当事者間交渉希望状況>

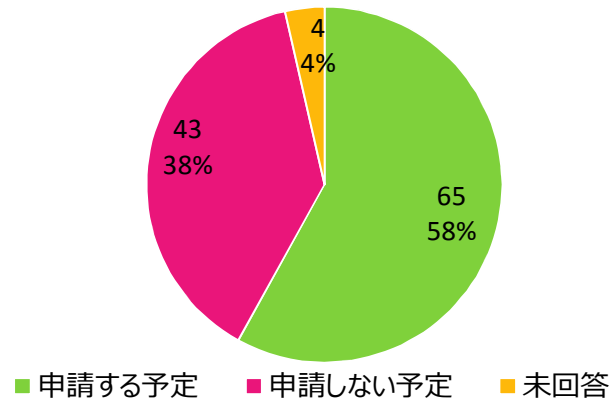


## <10月以降当事者間交渉を行わない理由>



交渉を行わない主な理由  
・応募出来るポストがもう存在しない など

## <来年度の申請希望状況>

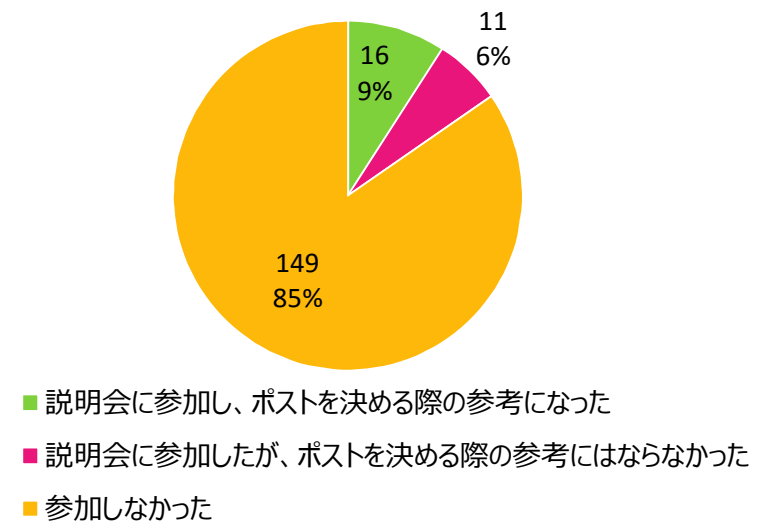


申請しない主な理由

- ・別の公募ポストに採用が決まったため
- ・申請要件の年齢上限を超えるため
- ・負担に比してメリットが少ないため
- ・ポストに選ばれる可能性がないと感じるため
- ・制度の趣旨、選考プロセスが不明瞭であるため
- ・既に採用予定者が決定していると思われるため など

## ○その他

### <平成29年度若手研究者向け説明会への参加状況>



# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑤）

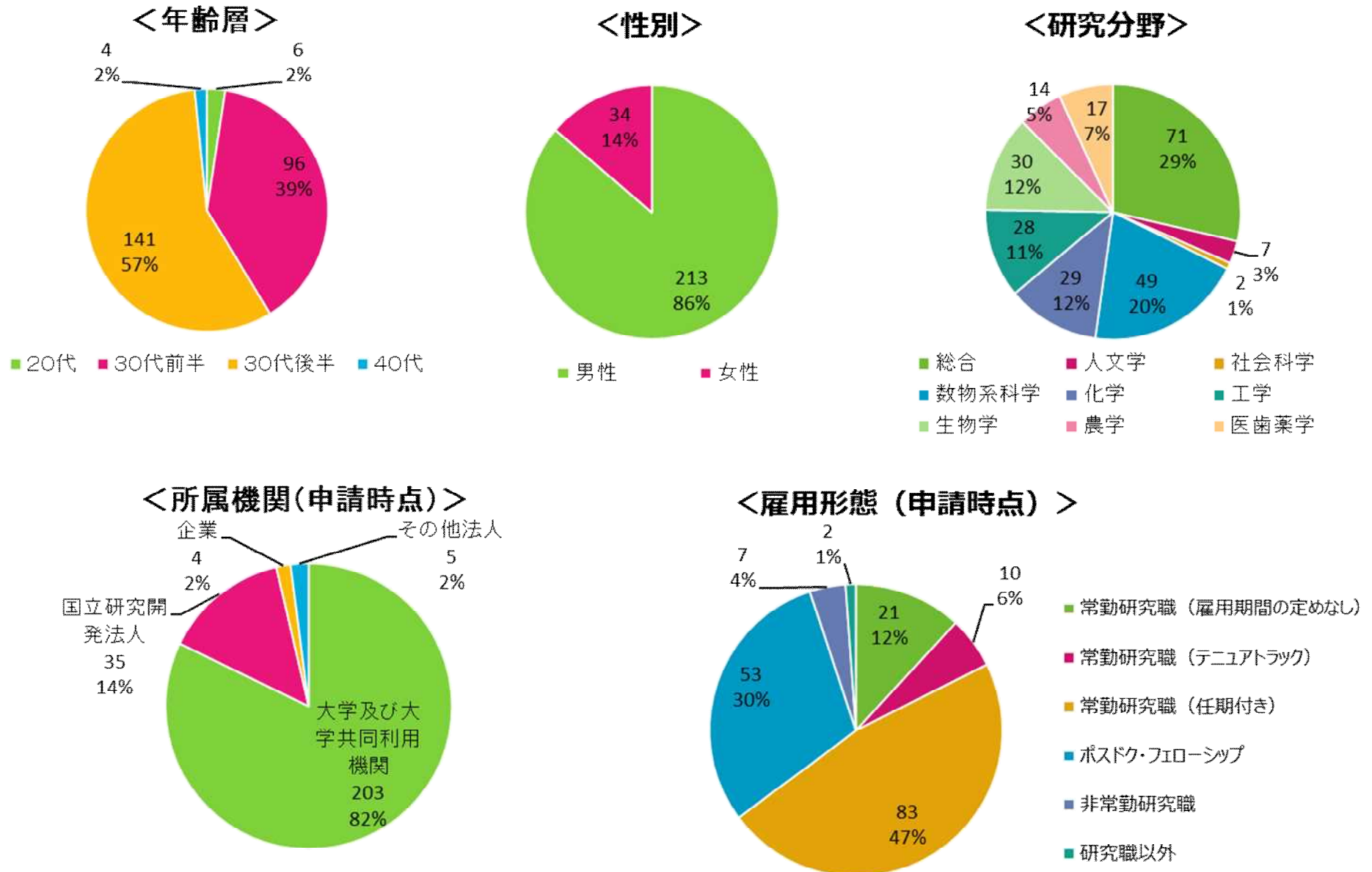
## ○主な意見（改善希望事項等）

	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機関に採用されなかった候補者は翌年度以降も一定期間当事者間交渉に参加できるようにすべき。（11件）</li> <li>○制度の認知度を上げる、機関のポスト提示可能時期を工夫するなど、より多くのポストが提示されるようにすべき。（8件）</li> <li>○機関に採用されなくても研究費を配分する、表彰する、業績に出来るようにするなど、当事者間交渉がうまく行かなかった候補者にもメリットがあると良い。（8件）</li> <li>○対象となる研究者の年齢制限を引き上げるべき。（3件）</li> <li>○当事者間交渉がうまくいかなかった候補者をサポートする制度があると良い。（2件）</li> <li>○対象となる年齢層が広く、これに対応して業績の量も様々であることから、どういった研究者を採用したいのかより具体的に公募要領等で提示した方が良い。（2件）</li> <li>○若手研究者の独立性を確保するための別の取組、又は工夫が必要（2件）</li> <li>○「卓越研究員」という名称が制度と合っていないため改めるべき。（2件）</li> </ul>
B	ポスト・当事者間交渉に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機関採用において、一般公募と変わらない扱いとなる場合があり、事業のメリットが感じられない。（12件）</li> <li>○ポストの当事者間交渉において、機関毎に異なる申請書を求めることは研究者の負担となるため、卓越研究員事業の申請書類を活用して欲しい。（11件）</li> <li>○候補者決定前から当事者間交渉を開始すること（事前連絡要）は廃止すべき。（11件）</li> <li>○既に採用予定者が決定していると疑われるポストもあり、公平公正な当事者間交渉とすべきでないか。（10件）</li> <li>○任期付きポストであったり、独立した環境でなく与えられたテーマの研究を行う必要があるなど、事業の趣旨・理念と異なるポストが提示されている。（9件）</li> <li>○ポストの研究分野や研究内容を過度に限定しすぎている。（8件）</li> <li>○機関が採用後の研究環境、雇用条件等に関する情報を提示するようにすべき。（5件）</li> <li>○候補者決定から、ポストの申込締め切りまでが短すぎる。（3件）</li> <li>○ポスト提示側の機関が卓越研究員制度について十分理解していないと感じる。（3件）</li> <li>○応募しても選考結果の連絡がないといった機関があるため、機関の当事者間交渉の方法を改善して欲しい。（2件）</li> </ul>
C	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卓越研究員の人件費は国が負担すべき。（5件）</li> <li>○補助金を年度を跨いで使用できると良い。（2件）</li> </ul>

# 平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑥）

## ○参考：卓越研究員候補者の属性

※年齢層、性別、研究分野、所属機関（申請時点）は実績値を記載



### 3. 事業アンケート

②研究者対象（H28卓越研究員候補者）

B.平成29年3月実施

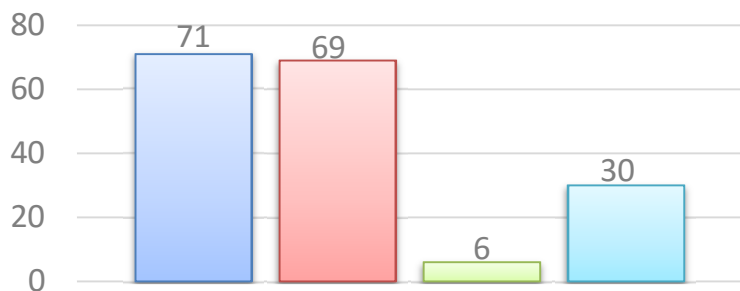


# 1-(2) 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の雇用調整状況①）

平成28年度の卓越研究員事業に申請し、卓越研究員候補者となった若手研究者に対して、雇用調整状況等についてアンケートを実施（H29.3実施 対象者数：176名、回答者数：146名（回答率：83%））。

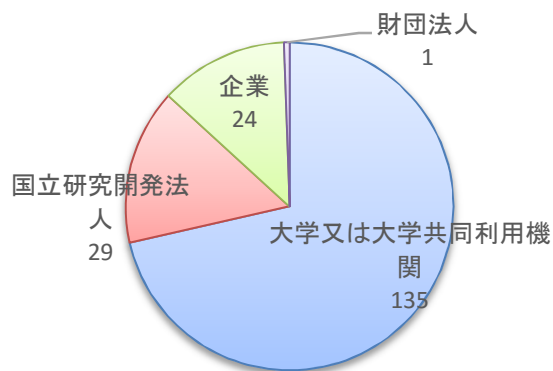
## ○雇用調整状況

＜雇用調整状況＞

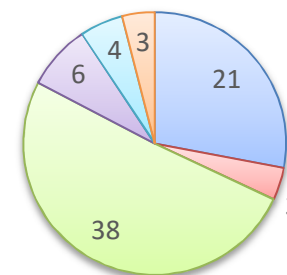


- 卓越研究員に決定された(実績値87名)
- 機関との雇用調整を行ったが、卓越研究員に決定されなかった
- 機関との雇用調整を行っておらず、卓越研究員に決定されなかった
- 未回答

＜雇用調整を行った機関＞  
(複数回答可:回答数189)

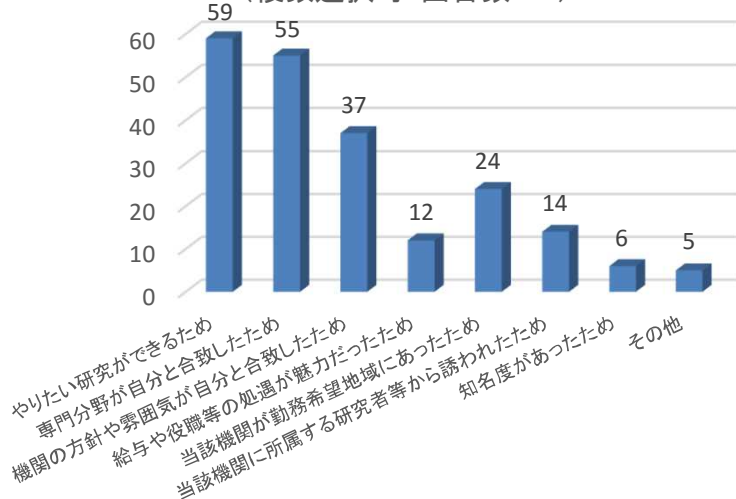


＜平成29年度卓越研究員事業への参画状況＞  
(対象回答数75)

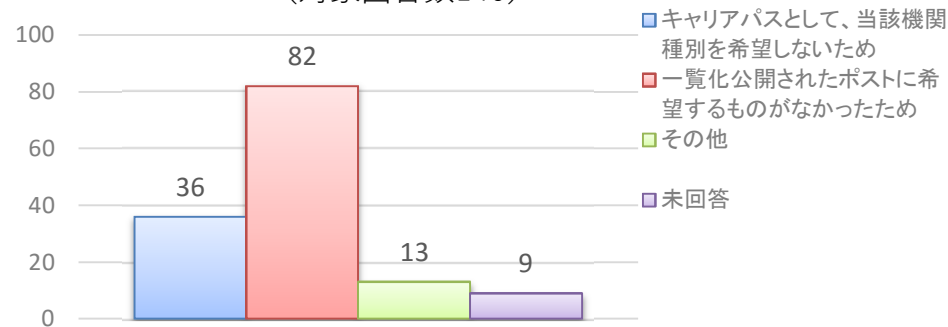


- 任期のないポストに就いており、平成29年度卓越研究員事業へ継続して参画している
- 任期のないポストに就いており、平成29年度卓越研究員事業へ継続して参画していない
- 任期のあるポストに就いており、平成29年度卓越研究員事業へ継続して参画している
- 任期のあるポストに就いており、平成29年度卓越研究員事業へ継続して参画していない
- その他
- 未回答

＜雇用調整が完了した機関を選択した理由＞  
(複数選択可:回答数212)



＜雇用調整を行わなかった機関種別の理由分布＞  
(対象回答数140)



### その他の主な内容

- ・大学以外では適合する分野が見当たらなかったため
- ・機関側の審査で採用に至らなかったため
- ・先に他機関への採用が決定したため
- ・多くの機関と接触する時間的余裕がなかったため など

## 1-(2) 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の雇用調整状況②）

### 【主な意見】

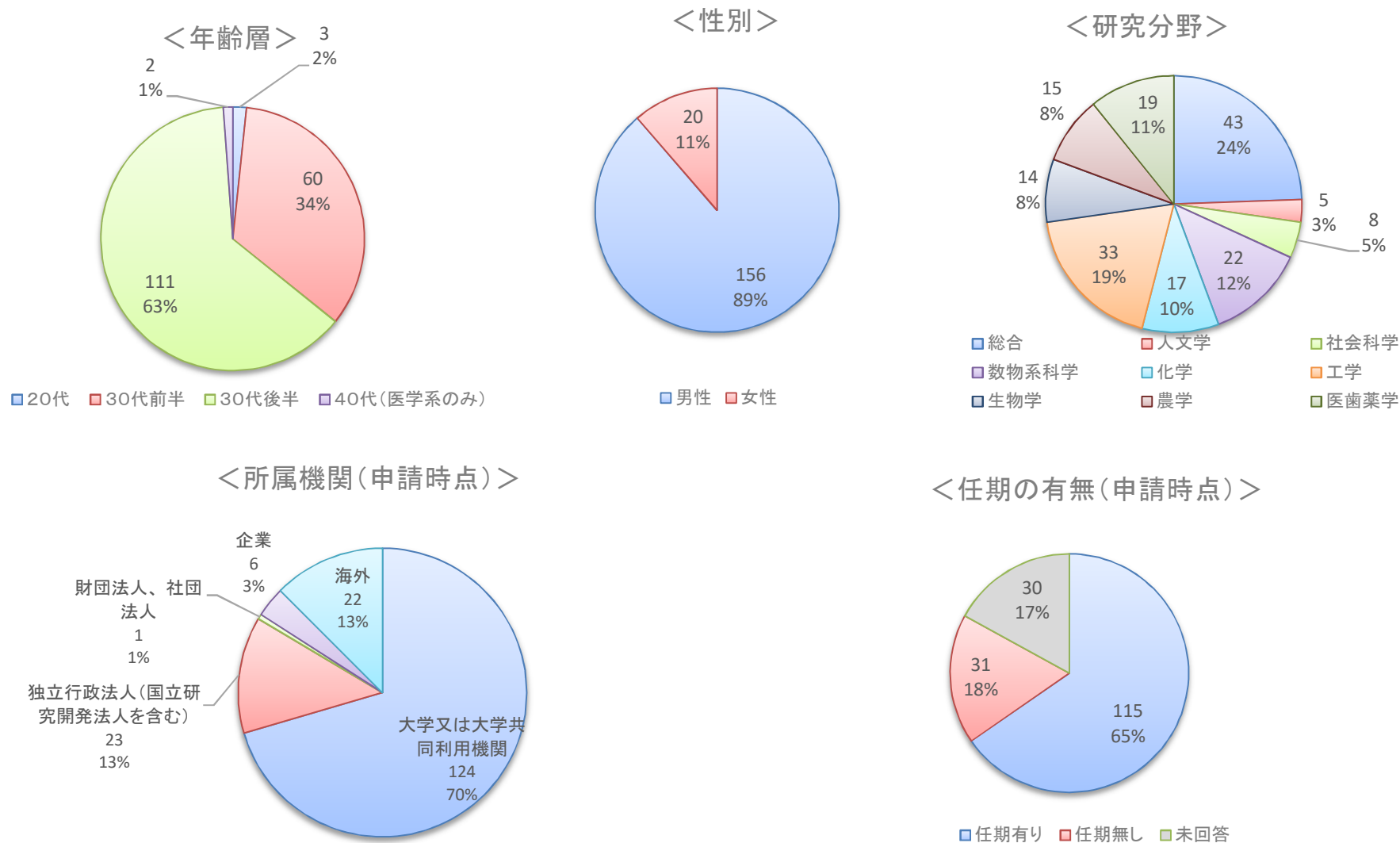
意見分類	主な内容
制度改善全般に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学運営上、卓越研究員数採用によるインセンティブを持たせるべきではないか。(7件)</li> <li>○年齢要件を緩和すべきではないか。(5件)</li> <li>○雇用調整がうまく行かなかった候補者をサポートする制度があると良いのではないか。(4件)</li> <li>○制度がわかりづらかった。(3件)</li> <li>○卓越研究員候補者であることの意義やメリットをもう少し明確にすべきではないか。(2件)</li> </ul>
一覧化公開ポ スト・雇用調整に関 すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究分野を過度に限定せずに可能な限り広く設定すべきではないか。(13件)</li> <li>○すでに採用予定者が決定していると疑われる件もあり公平公正な雇用調整をすべきではないか。(12件)</li> <li>○任期無しのポストをより多く募集するべきではないか。(6件)</li> <li>○実際は安定かつ自立した研究環境が提示されていないポストもあったのではないか。(5件)</li> <li>○卓越研究員候補者と研究機関との雇用調整を取る期間が短かったのではないか。(5件)</li> <li>○昨年度の推薦制のような方法を主としたものとするべきではないか。(5件)</li> <li>○卓越研究員候補者の審査資料を活用するなど書類作成の労力を減らすべきではないか。(5件)</li> <li>○卓越研究員候補者における選考と機関における選考が単なる2段階選抜になっていなかったか(4件)</li> <li>○求める人材や諸条件についてより明確に示すべき。(3件)</li> <li>○推薦制度を廃止すべきではないか(2件)</li> </ul>
経費に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卓越研究員の人件費を支出できるようにすべきではないか。(12件)</li> <li>○卓越研究員を国で雇用すべきではないか。(4件)</li> <li>○より長期的な補助、予算規模の拡大など図るべきではないか。(3件)</li> <li>○予算の繰り越し可能とすべきではないか。(3件)</li> </ul>

※上記は、「自由記述」欄に記載された主な意見について、分類・整理したもの。



# 1-(2) 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の雇用調整状況③）

## （参考）卓越研究員候補者の属性



※本アンケートの対象者（176名）の属性。なお、任期の有無については、アンケート結果を元に作成

### 3. 事業アンケート

②研究者対象（面接審査対象者）

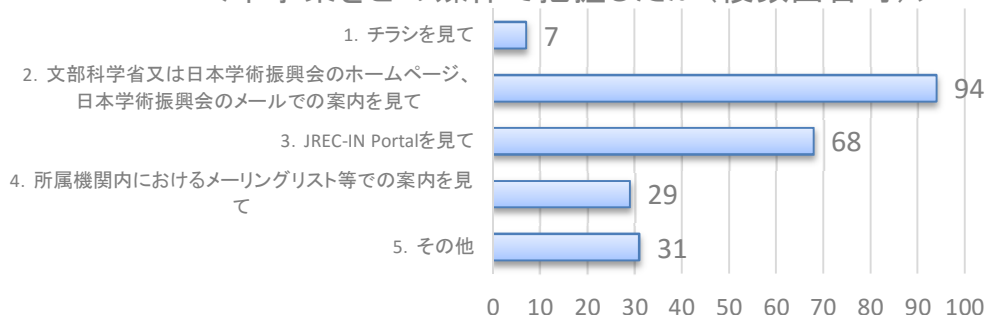
C.平成28年7月実施

# 1-(1) 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（申請の動機や希望ポスト等①）

平成28年度の卓越研究員事業に申請し、面接審査の対象となった若手研究者に対して、申請の動機や希望ポスト等についてアンケートを実施（H28.7実施 対象者数：240名、回答者数：183名（回答率：76%））。

## ○申請の動機等

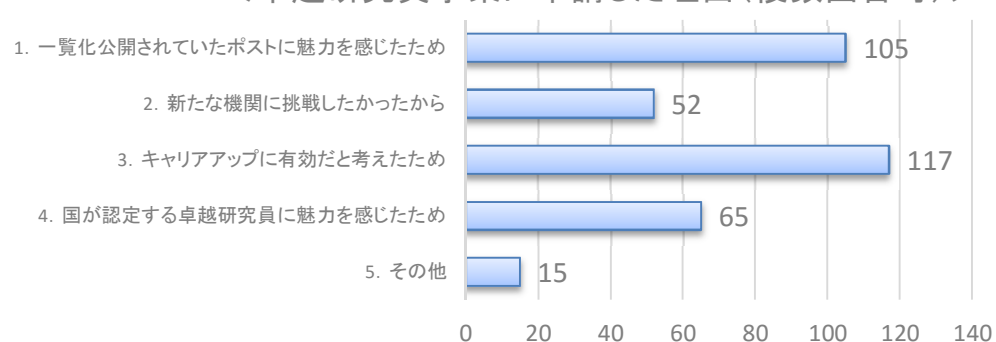
＜本事業をどの媒体で把握したか（複数回答可）＞



### その他の主な内容

- ・学会からのメーリングリスト
- ・ツイッター等SNSから
- ・新聞、Yahoo!ニュースなど報道から
- ・若手研究者間の口コミ など

＜卓越研究員事業に申請した理由（複数回答可）＞

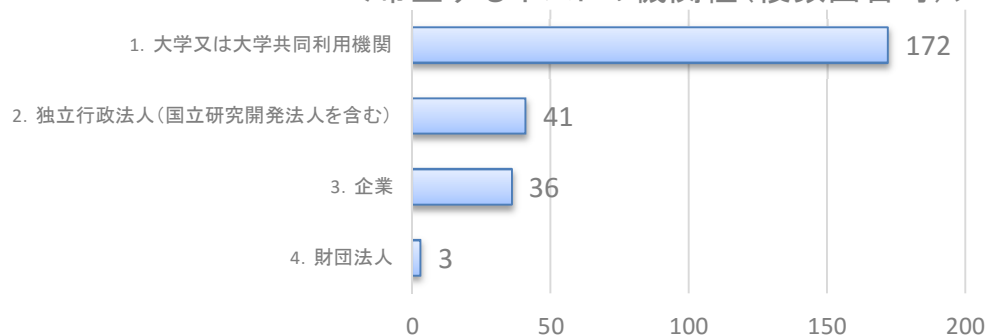


### その他の主な内容

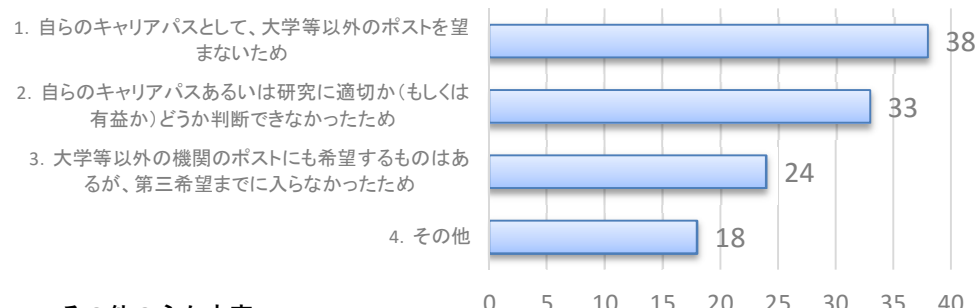
- ・他よりも長い任期で、かつテニユア審査がありやりがいを感じた
- ・日本へ戻るポストが必要だったため
- ・日本で若手研究者が独立した研究室を持てる数少ないチャンスだったため
- ・現職が任期付きで、他機関に移る必要があったため

## ○希望ポスト等

＜希望するポストの機関種（複数回答可）＞



＜大学以外のポストを希望しない理由＞

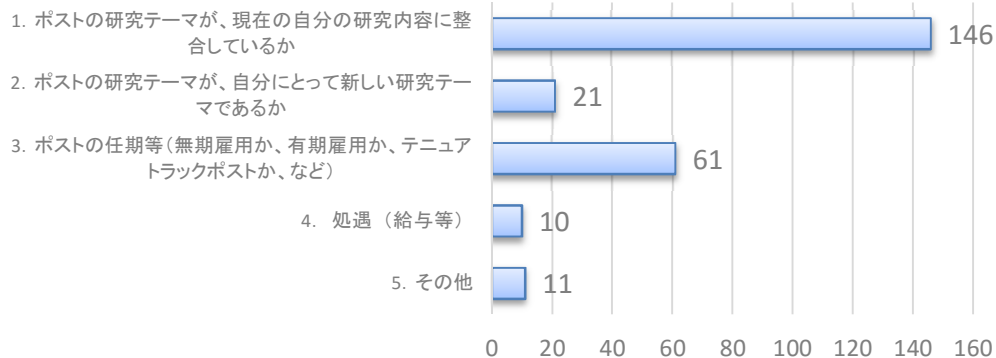


### その他の主な内容

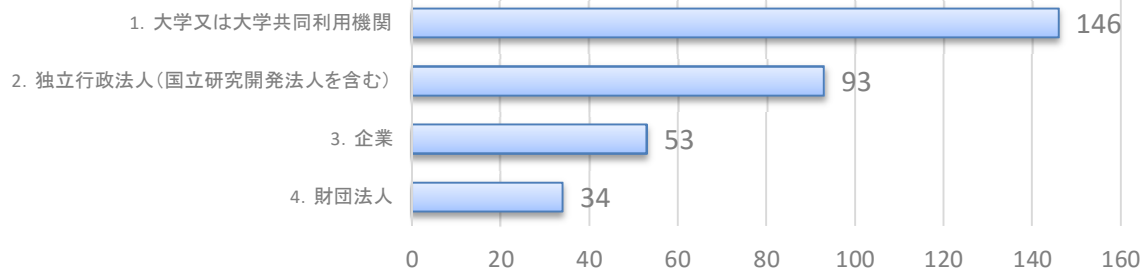
- ・自身の研究分野とマッチする分野がなかったため
- ・転居を伴いたくなかったため
- ・学術研究をベースに考えており、また、教育に携わりたかったため

# 1-(1) 平成28年度卓越研究員事業のアンケート結果（申請の動機や希望ポスト等②）

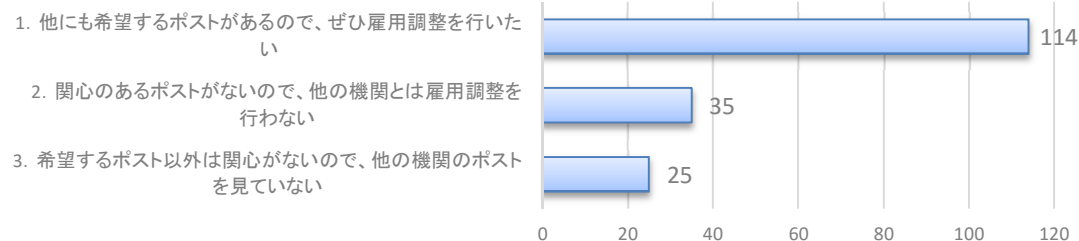
＜希望ポストを決める際に重視する点＞



＜雇用調整を希望する機関種別＞



＜申請書に記載した希望ポスト以外の機関と雇用調整を希望するかどうか＞

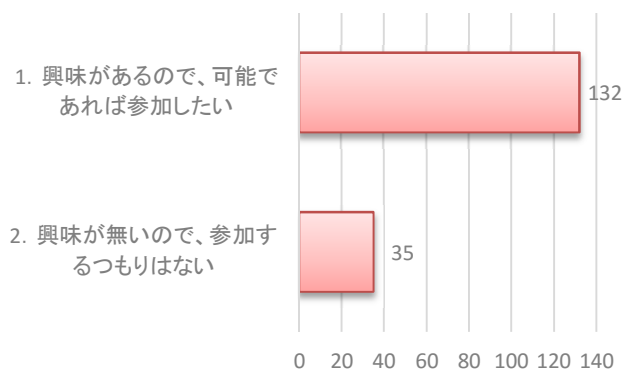


その他の主な内容

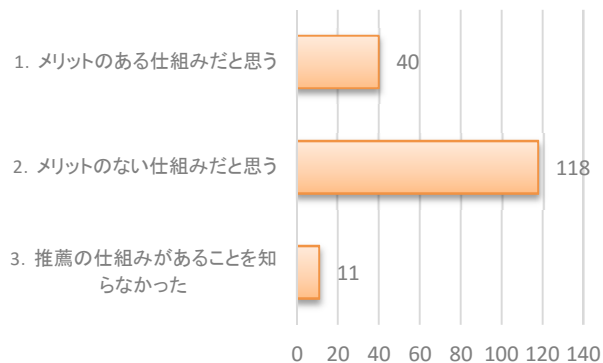
- 所在地等地理的条件
- 女性にとって働きやすい環境か否か
- 自分のやりたい研究ができるか
- など

## ○その他

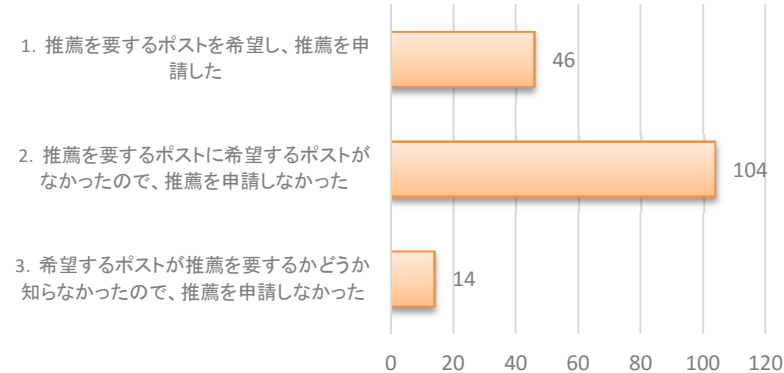
ポストの説明会への関心



推薦の仕組みについて



推薦ポストの活用状況



出典：文部科学省作成